

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）

結果概要

高津区版

目次

■ 調査の目的	- 1 -
■ 調査の設計	- 1 -
■ 概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 8 -
3. 近隣地域とその課題について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 36 -
8. 自由回答のまとめ	- 41 -
資料 アンケート調査票	- 61 -

調査の結果

■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第 6 期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の 20 歳以上の男女（外国人を含む）各区 900 人、全市合計 6,300 人

【調査時期】

令和元年 11 月 28 日～令和元年 12 月 20 日

【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

【調査内容】

- ・基本属性
- ・『川崎市地域福祉計画』について
- ・居住地域について
- ・地域活動やボランティア活動について
- ・保健・福祉に関することについて
- ・東日本大震災後の意識の変化について
- ・今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中の n とは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答は n を 100%として百分率で算出してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える。

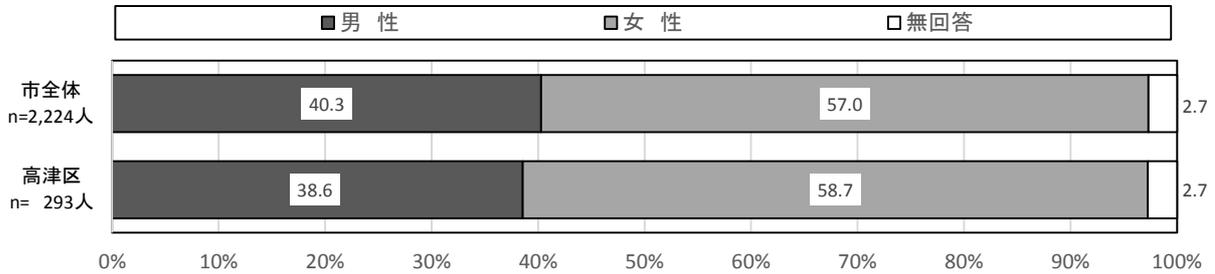
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数 （人）	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
（参考） 第 4 回回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%

1. 回答者の基本属性

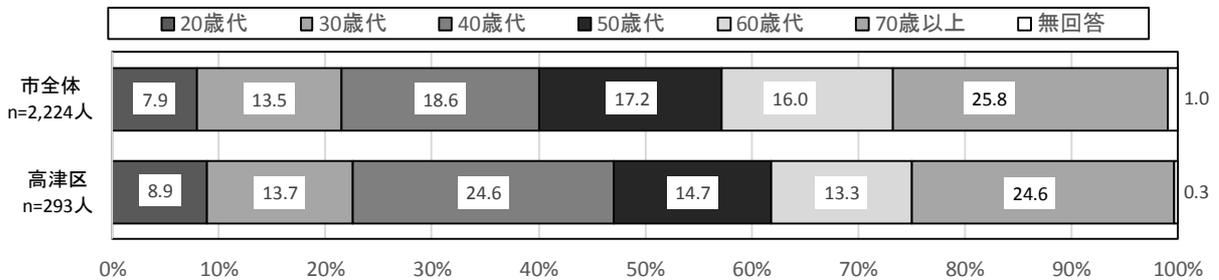
問1 性別を教えてください。(1つに○)

高津区では、男性が38.6%、女性が58.7%となっている。



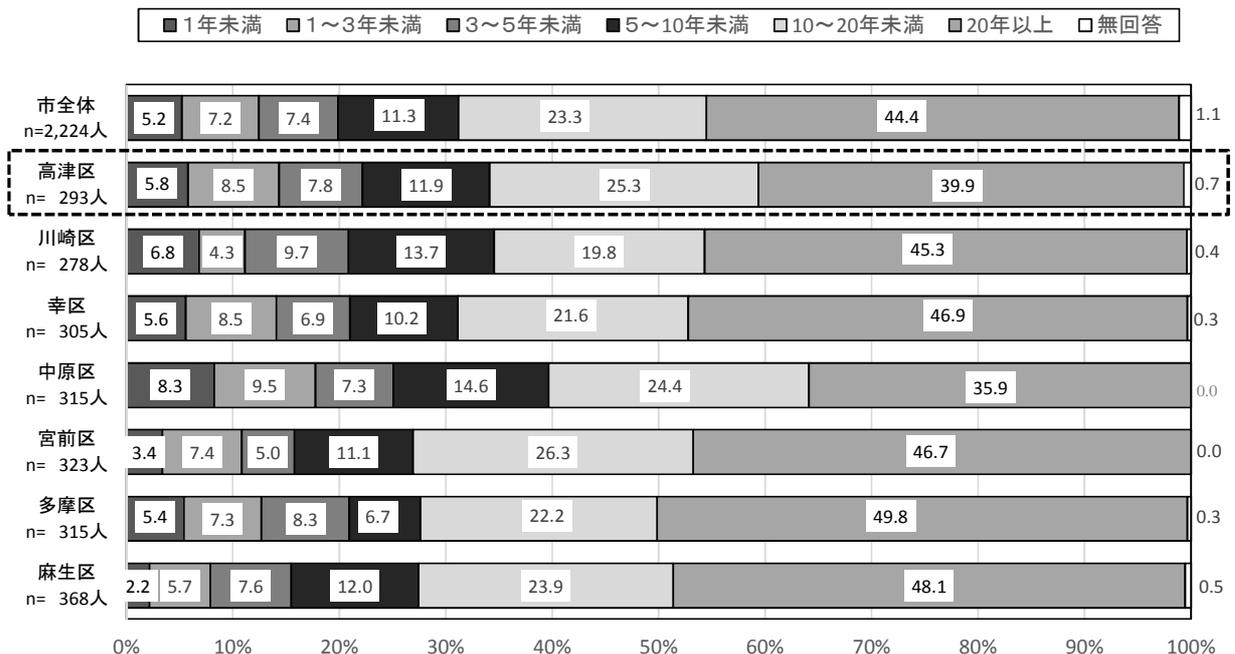
問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

高津区では、40歳代と70歳以上が24.6%で最も高く、次いで50歳代(14.7%)となっている。



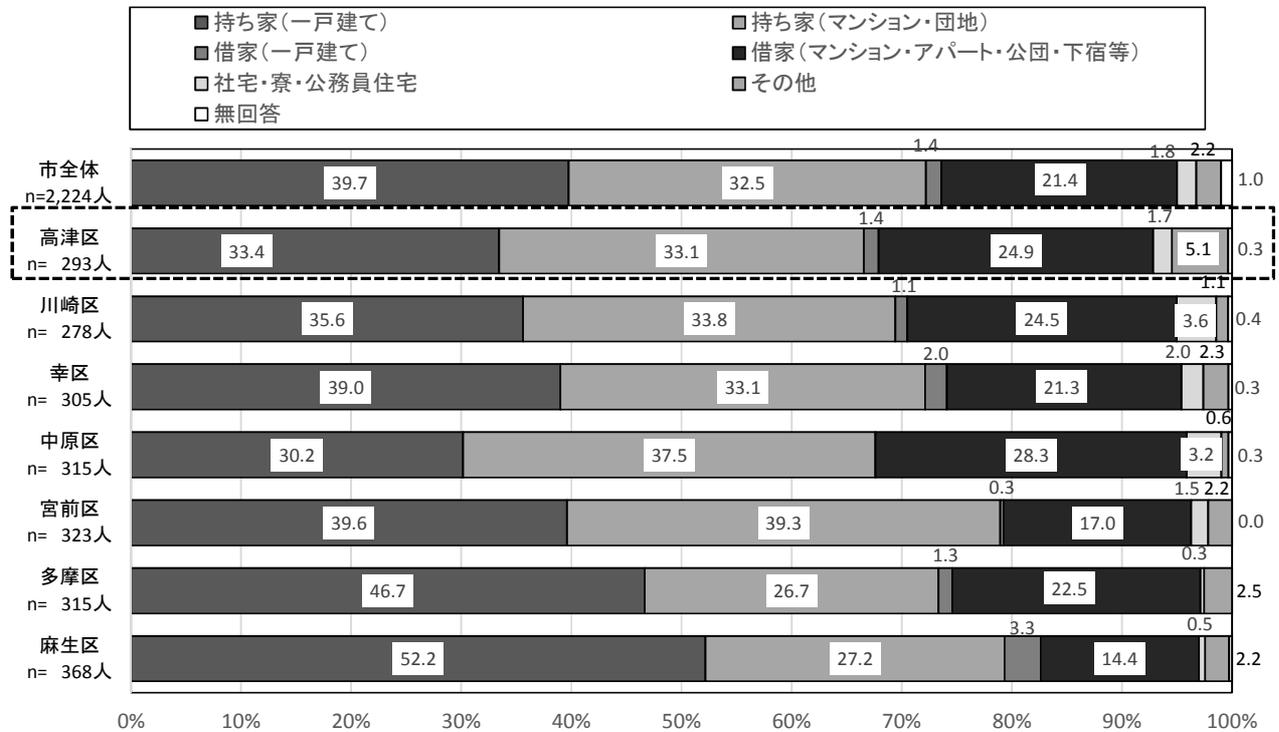
問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

高津区では、20年以上が39.9%で最も高く、次いで10~20年未満(25.3%)、5~10年未満(11.9%)となっている。市内6区と比較すると、10~20年未満の割合が25.3%で、宮前区(26.3%)に次いで高くなっている。



問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに○)

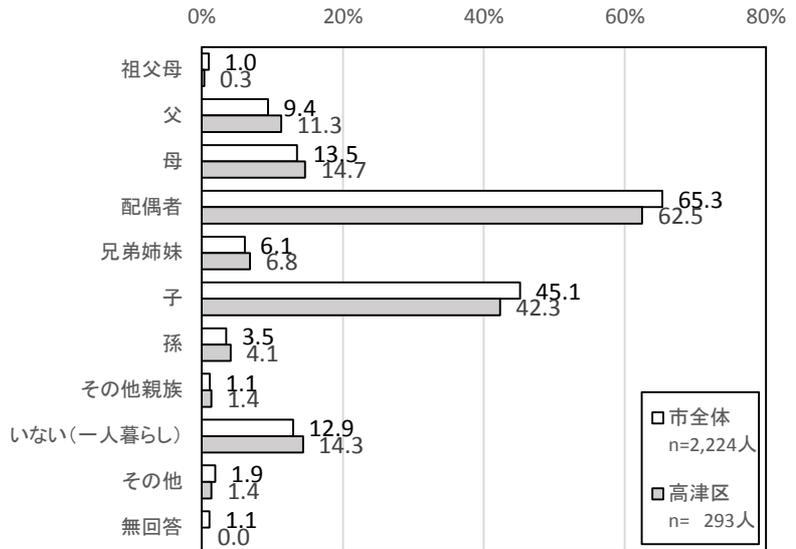
高津区では、持ち家(一戸建て)の割合が33.4%で最も高く、次いで持ち家(マンション・団地)(33.1%)、借家(マンション・アパート・公団・下宿等)(24.9%)となっている。市内6区と比較すると、持ち家(一戸建て)と(マンション・団地)を合わせた持ち家の割合が66.5%で最も低くなっている。



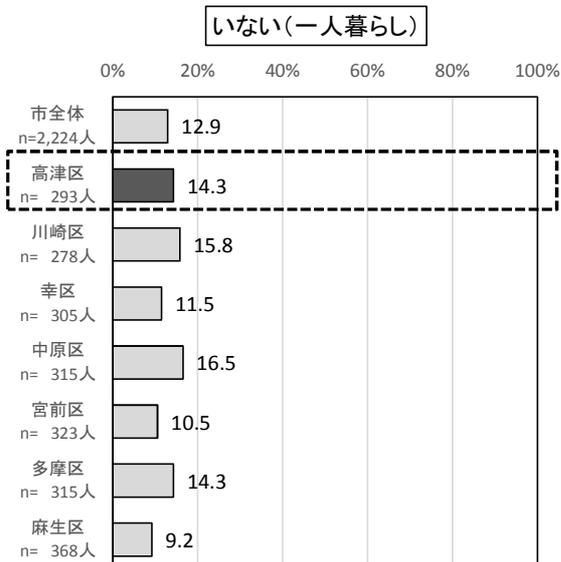
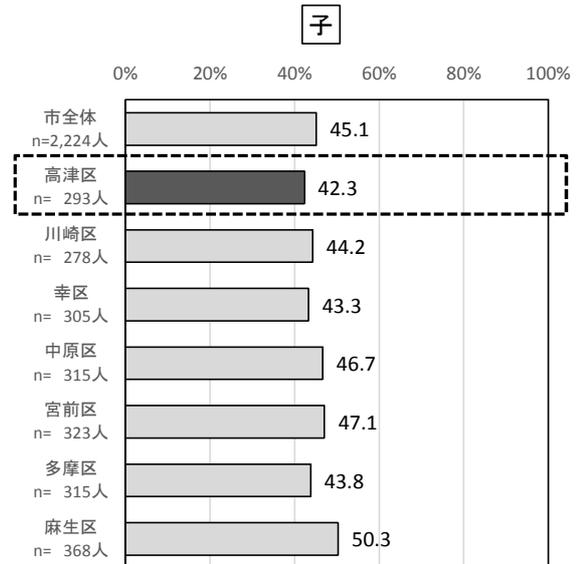
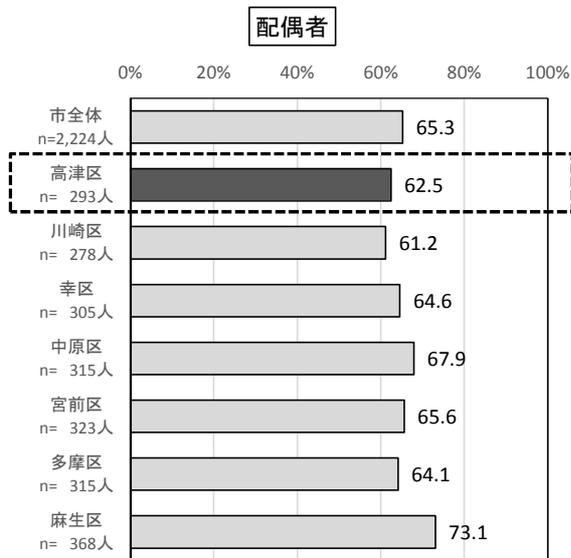
問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

高津区では、「配偶者」が62.5%で最も高くなっている。

市内6区と比較すると、「配偶者」の割合が62.5%で2番目に低く、「子」の割合は42.3%で最も低い。また、「いない(一人暮らし)」は14.3%で、3番目に高くなっている。

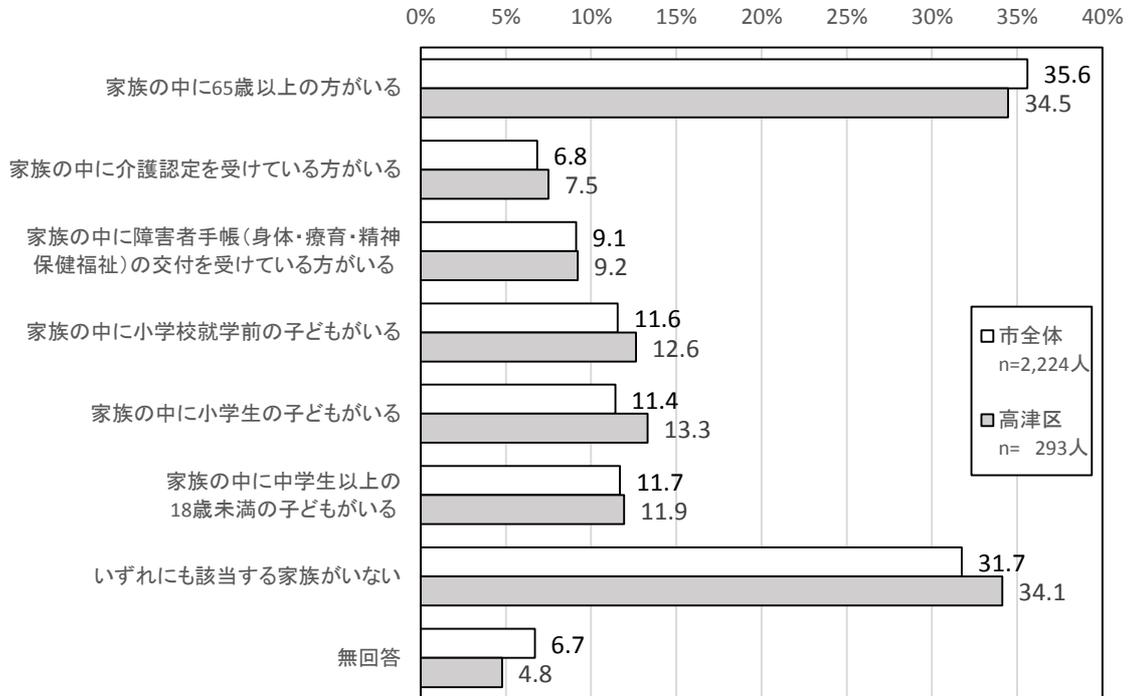


【参考】

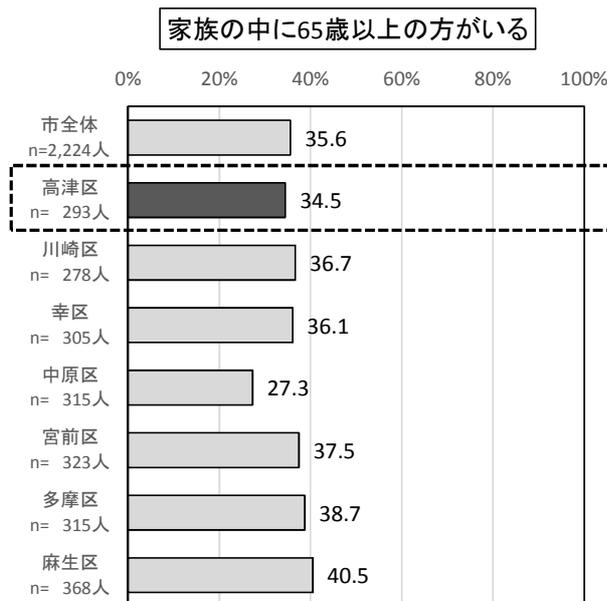


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。
 （あてはまるものすべてに○）

高津区では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が34.5%で最も高くなっている。市内6区と比較すると、「家族の中に65歳以上の方がいる」が2番目に低い。



【参考】

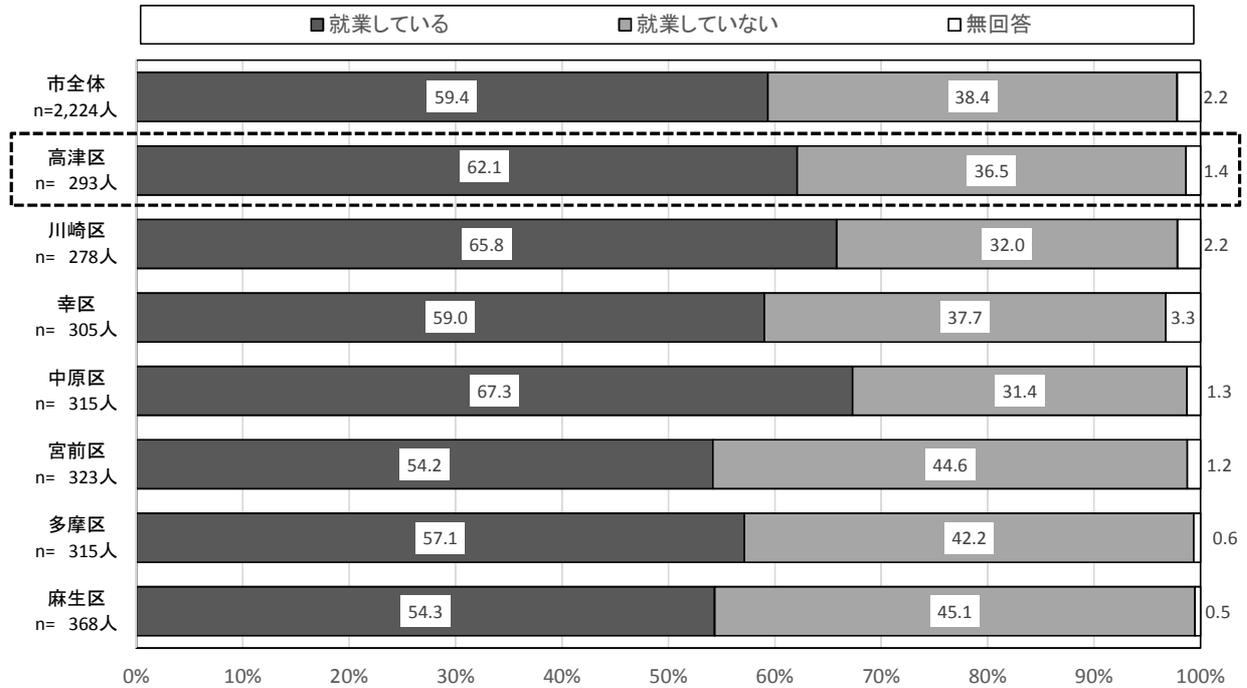


問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

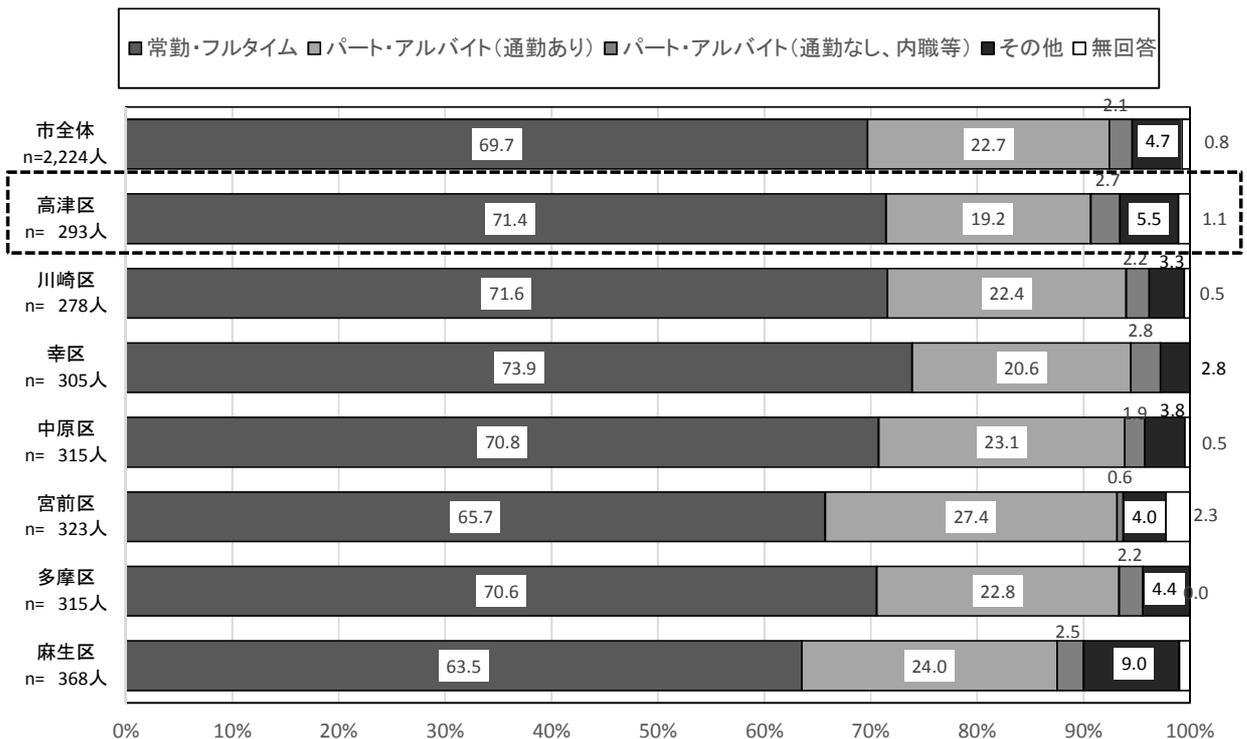
高津区では、就業している割合が62.1%で市全体(59.4%)を上回っている。市内6区と比較すると、就業している割合は中原区、川崎区に次いで高くなっている。

就業形態については、常勤・フルタイムが71.4%で市全体(69.7%)を上回っている。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は幸区(73.9%)、川崎区(71.6%)に次いで高くなっている。

ア. 就業状況

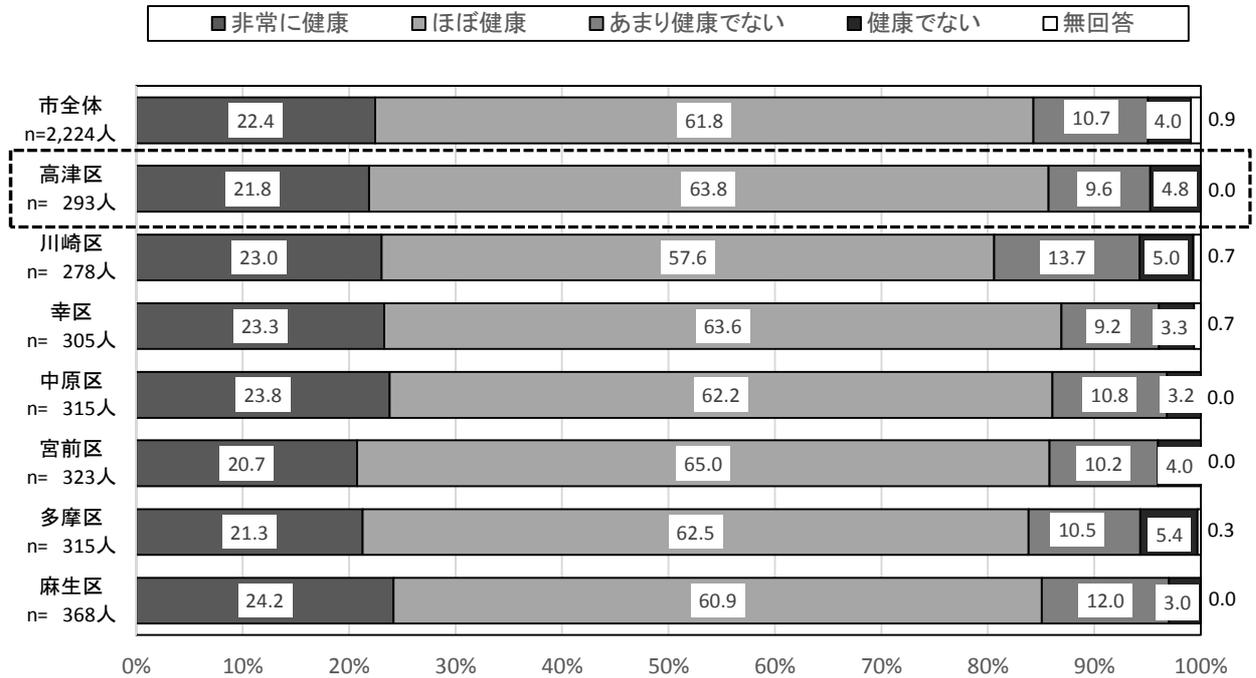


イ. 就業形態



問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

高津区では、健康状態が「ほぼ健康」の方が63.8%で市全体(61.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「ほぼ健康」(63.8%)、「非常に健康」(21.8%)を合わせた割合が85.6%で、4番目に高くなっている。

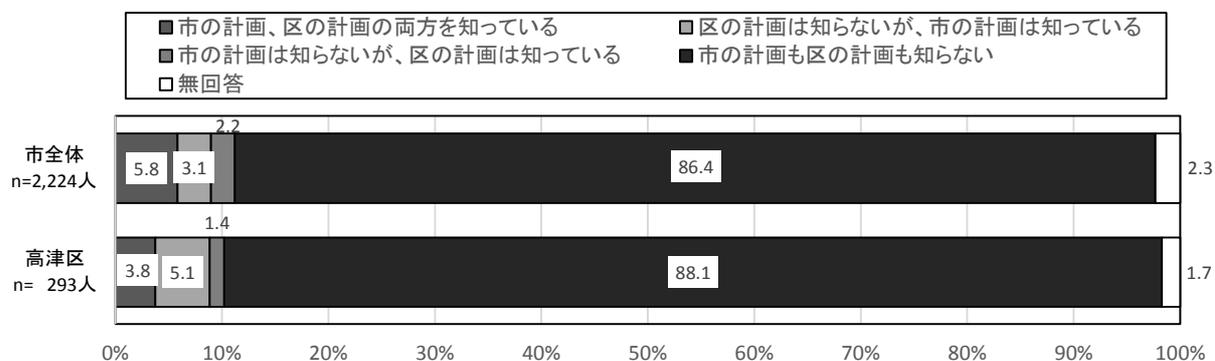


2. 『川崎市地域福祉計画』について

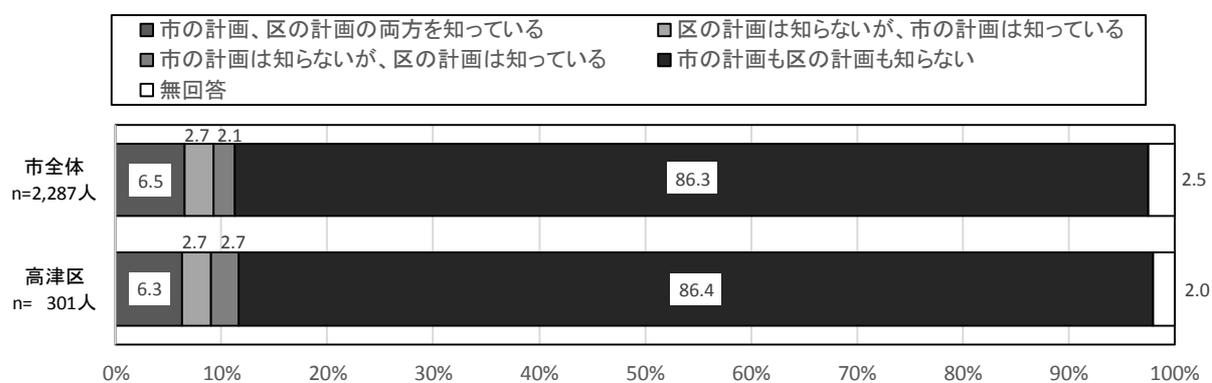
問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

高津区では、「市の計画も区の計画も知らない」割合が88.1%となっている。

第4回調査と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」が1.7ポイント増加している。



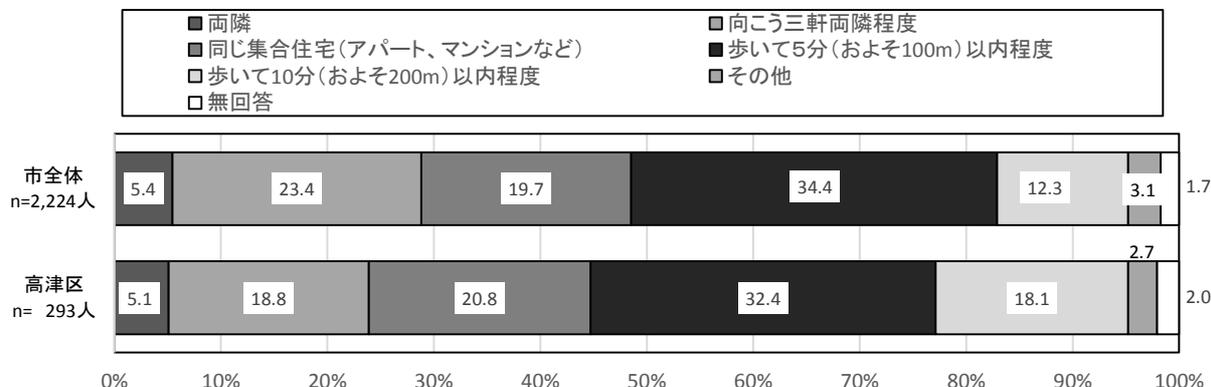
【参考】第4回調査結果



3. 近隣地域とその課題について

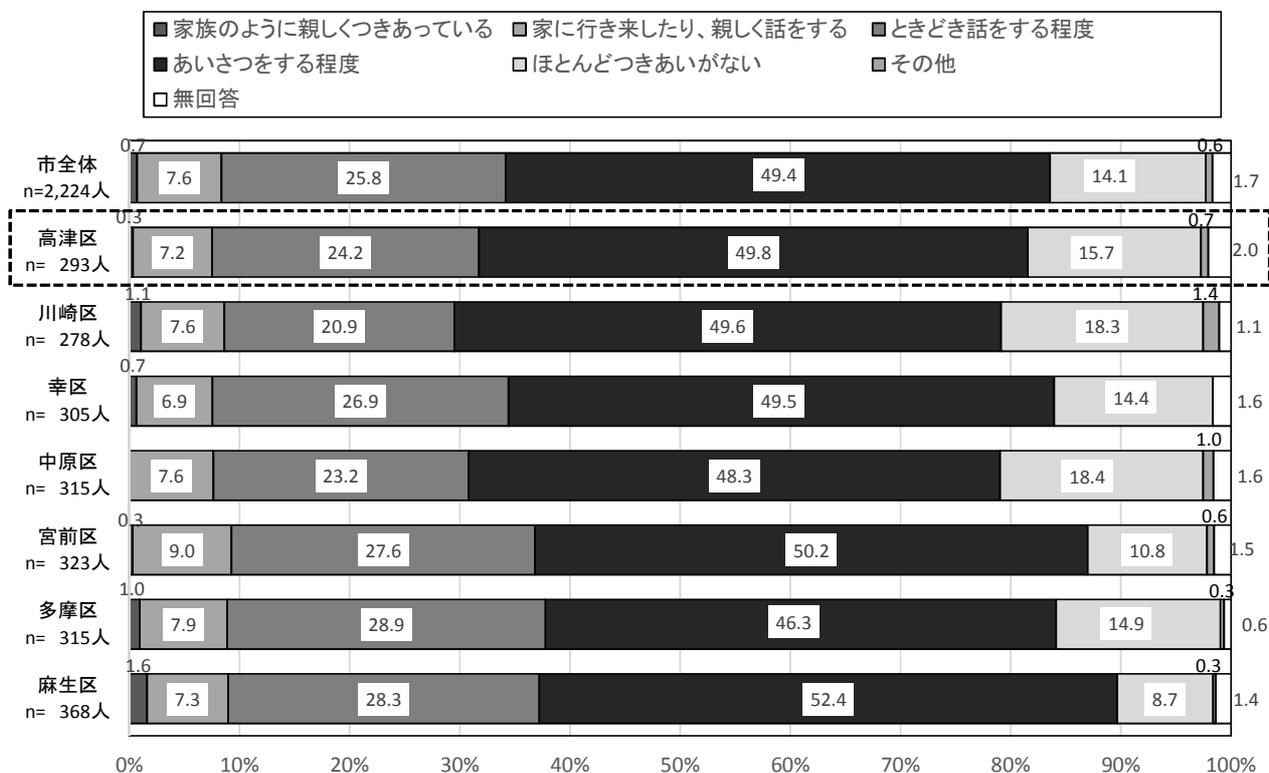
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

高津区では、「同じ集合住宅(アパート、マンションなど)」の割合が20.8%で市全体(19.7%)を上回っている。



問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

高津区では、「あいさつをする程度」の割合が49.8%、「ほとんどつきあがない」の割合が15.7%で、どちらも市全体を上回っている。市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」「家に行き来したり、親しく話をする」「ときどき話をする程度」を合わせた割合は31.7%で、川崎区(29.6%)、中原区(30.8%)に次いで低くなっている。

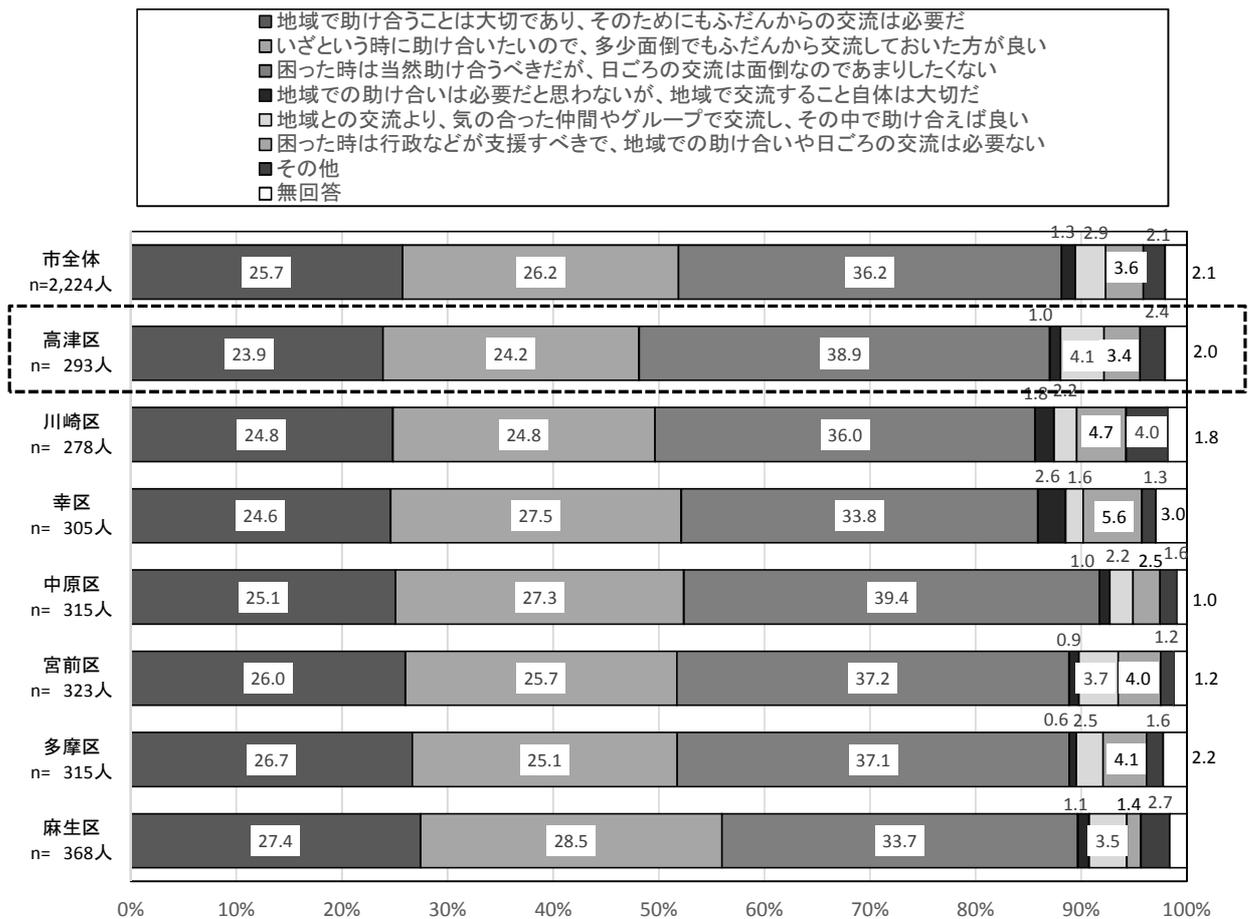


問15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。

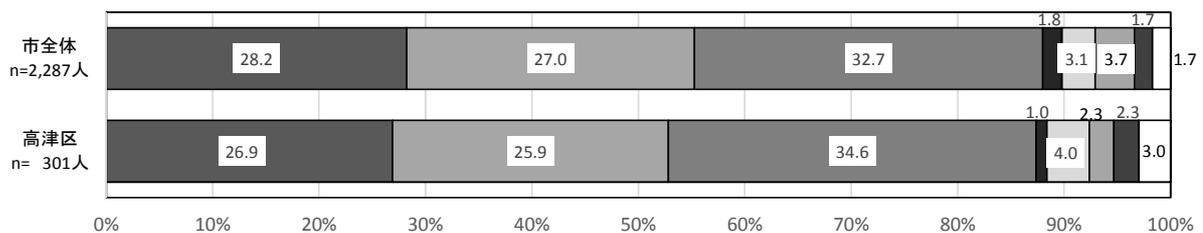
(1つに○)

高津区では、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が38.9%で市全体(36.2%)を上回っている。市内6区と比較すると、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合は38.9%で2番目に高い。また、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」(23.9%)と「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」(24.2%)の割合は最も低い。

第4回調査と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合は3.0ポイント減少している。

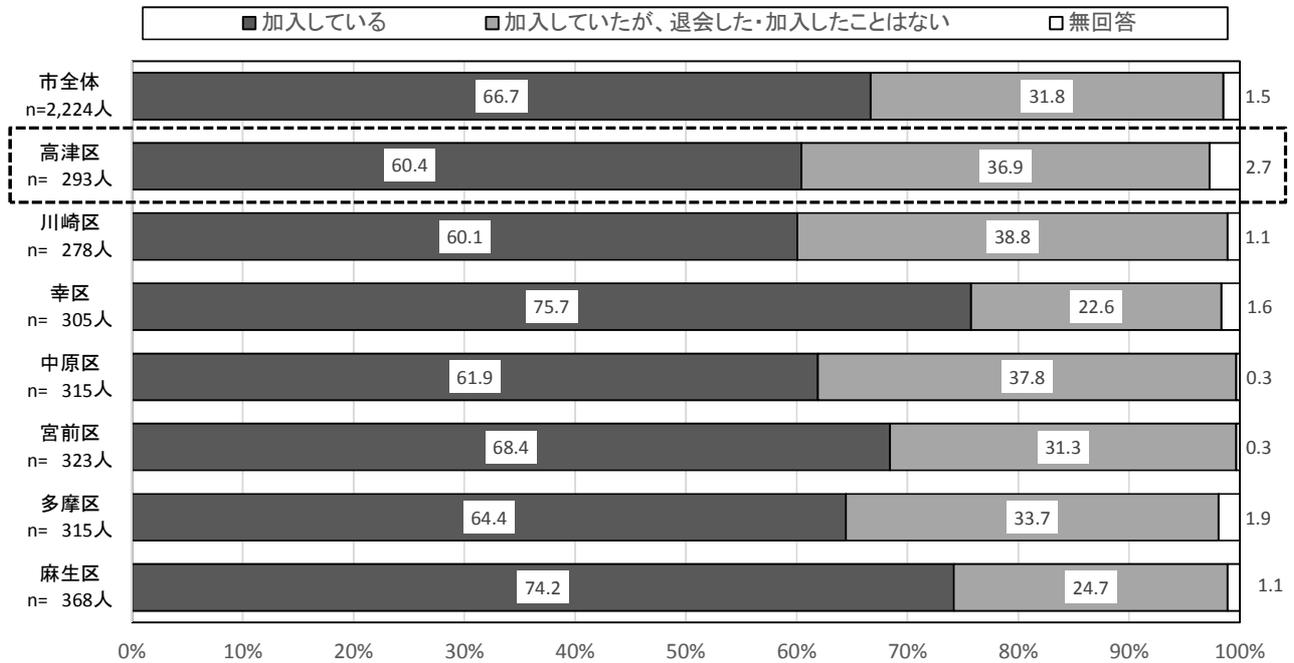


【参考】第4回調査結果



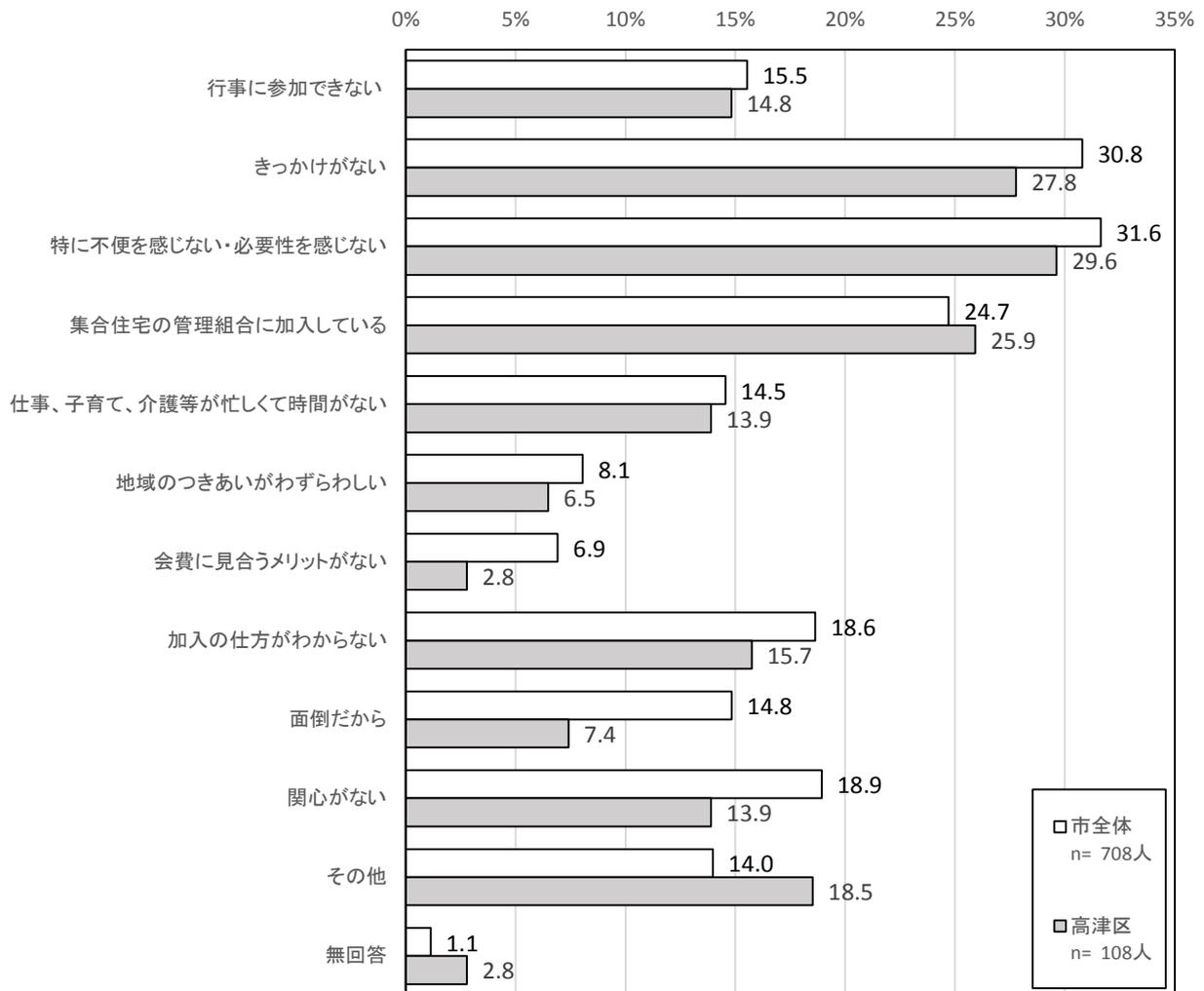
問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

高津区では、「加入している」割合が60.4%で市全体(66.7%)を下回っている。市内6区と比較すると、「加入している」割合は最も低い川崎区(60.1%)に次いで低くなっている。



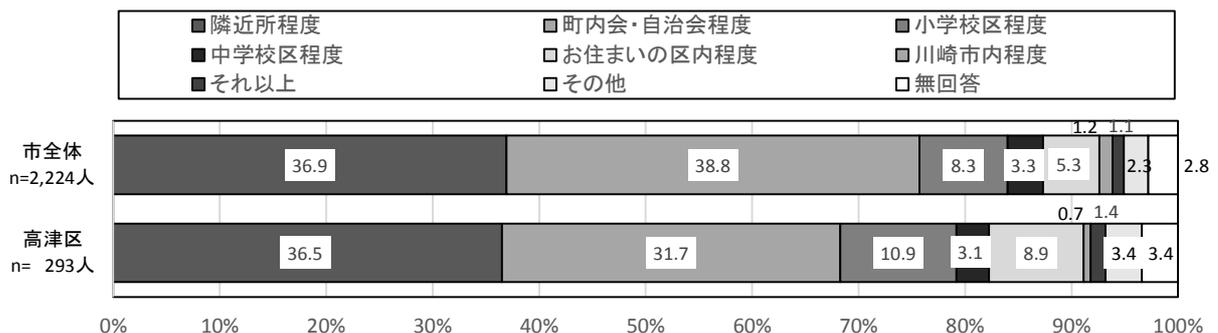
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 29.6%で最も高く、次いで「きっかけがない」（27.8%）、「集合住宅の管理組合に加入している」（25.9%）となっている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

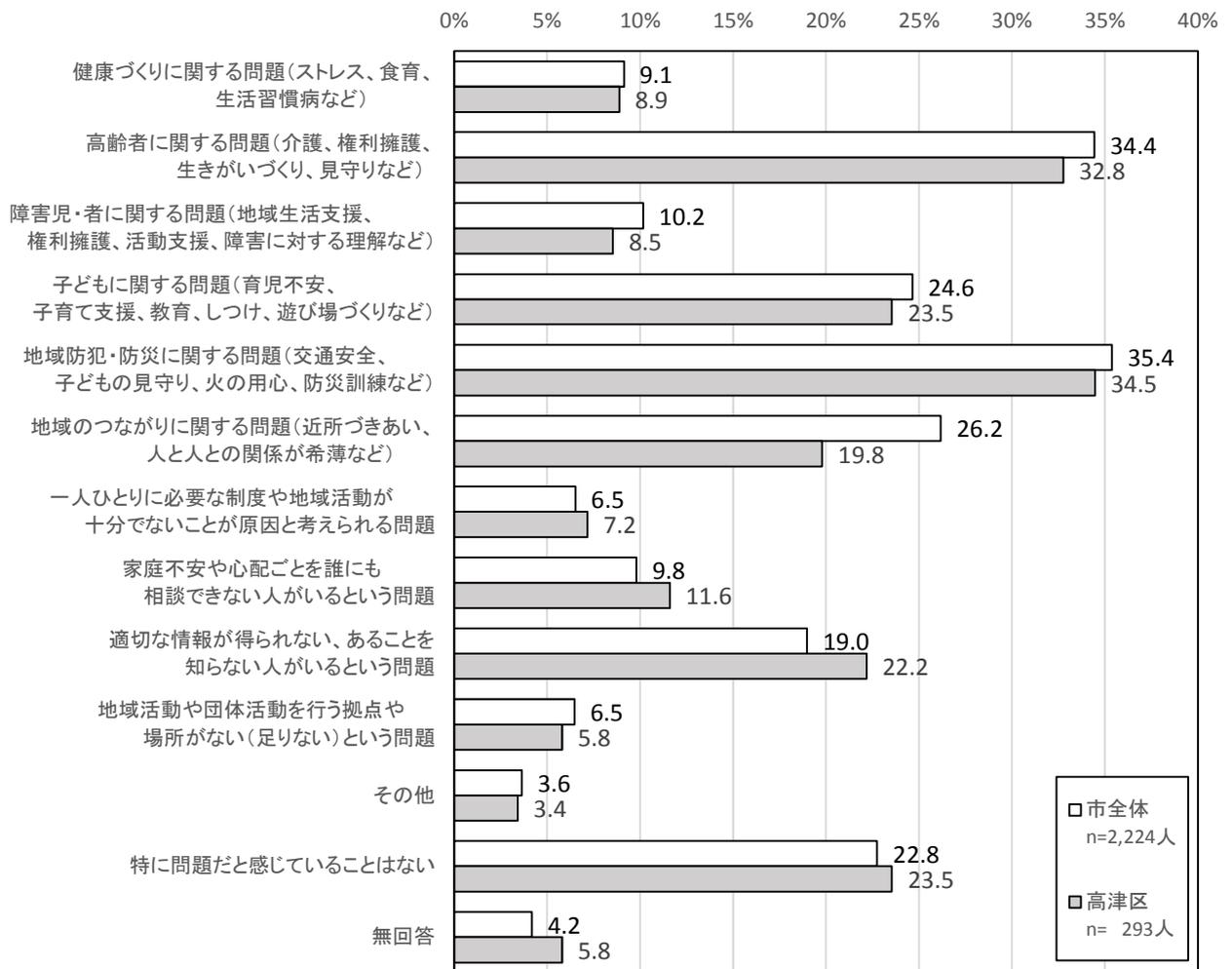
高津区では、「隣近所程度」の割合が 36.5%で最も高く、次いで「町内会・自治会程度」（31.7%）、「小学校区程度」（10.9%）となっている。



問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

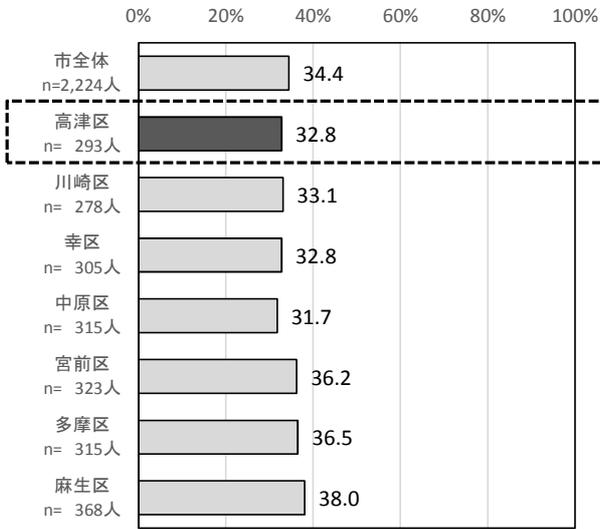
高津区では、「地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)」の割合が34.5%で最も高く、次いで「高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいがづくり、見守りなど)」(32.8%)、「子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)」及び「特に問題だと感じていることはない」(23.5%)となっている。

市内6区と比較すると、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」については22.2%で最も高くなっている。一方、「地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)」については19.8%で最も低くなっている。

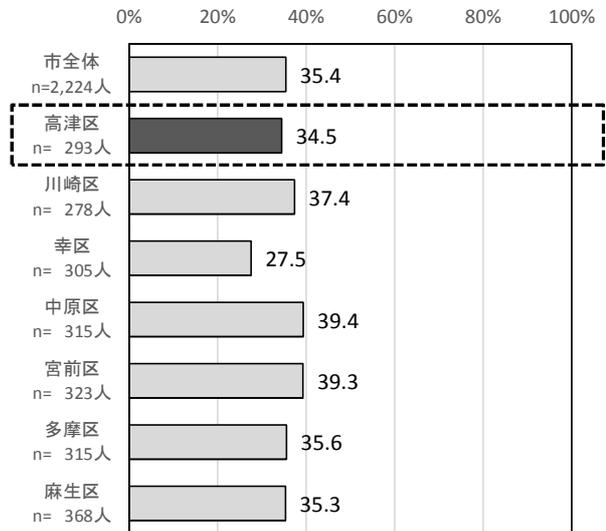


【参考】

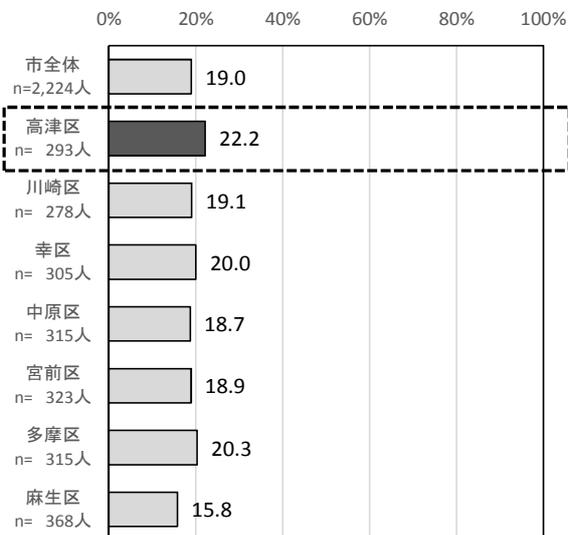
高齢者に関する問題



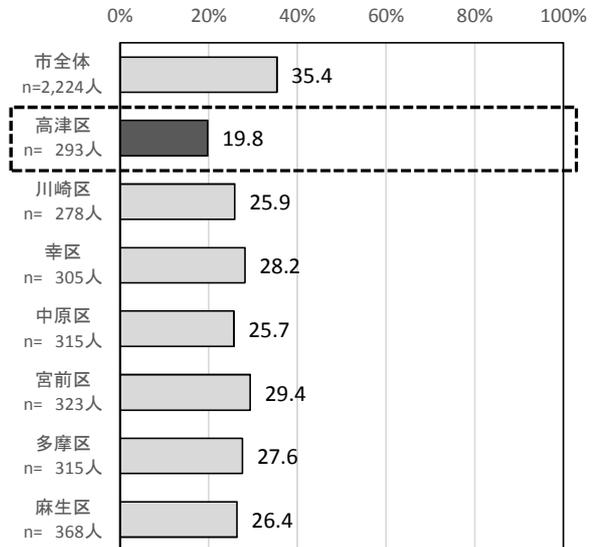
地域防犯・防災に関する問題



適切な情報が得られない、あることを知らない人があるという問題

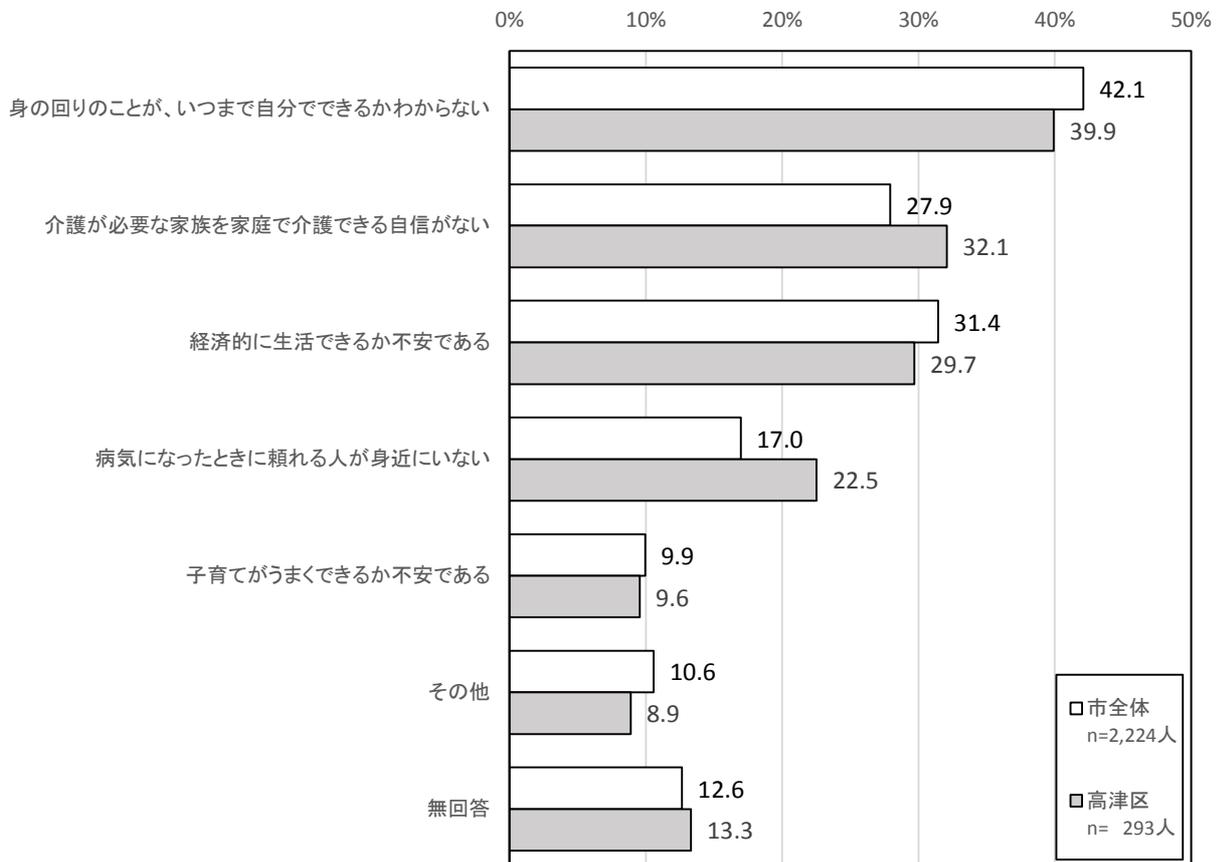


地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)



問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

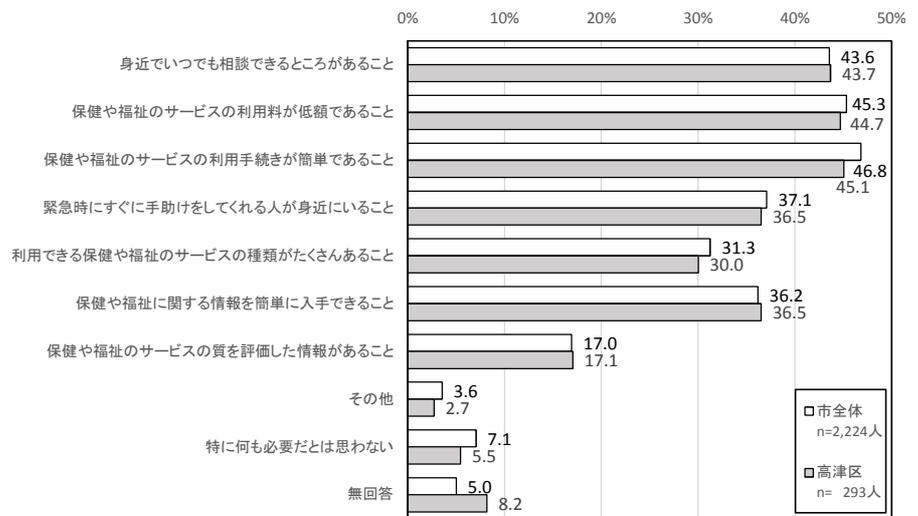
高津区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が39.9%で最も高く、次いで「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」(32.1%)、「経済的に生活できるか不安である」(29.7%)となっている。



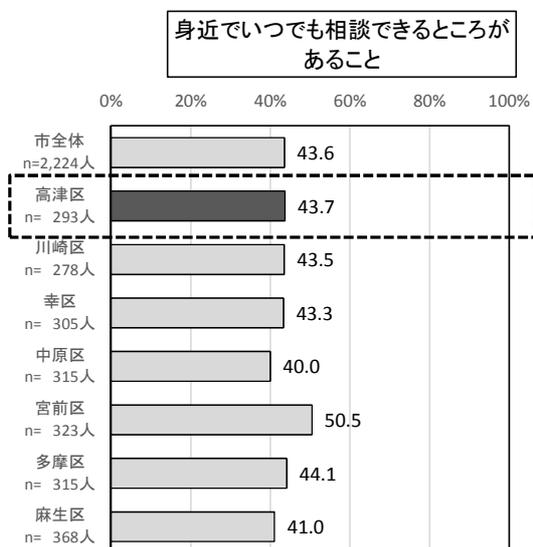
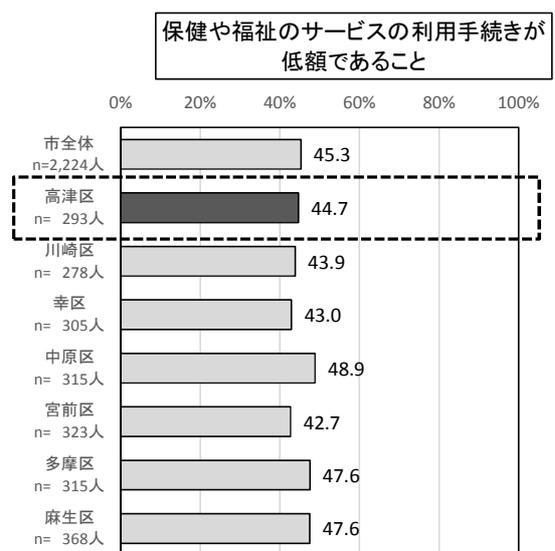
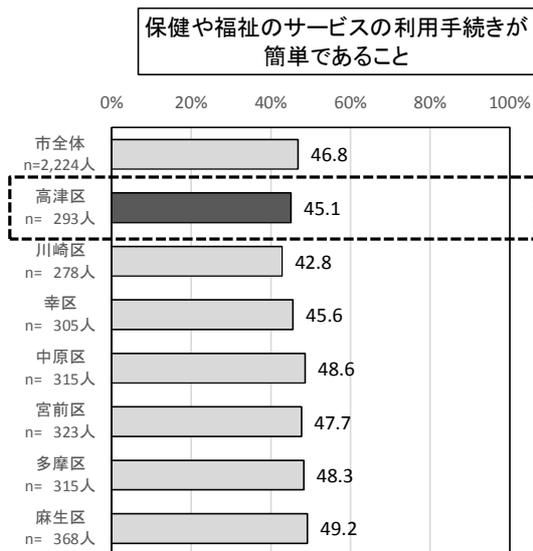
問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

高津区では、「保健や福祉サービスの利用手続きが簡単であること」が45.1%で市全体(46.8%)を下回っている。

市内6区と比較すると、「保健や福祉サービスの利用手続きが簡単であること」(45.1%)は2番目に低く、「保健や福祉サービスの利用手続きが低額であること」(44.7%)は4番目に低い。また、「身近でいつでも相談できるところがあること」は43.7%と3番目に高くなっている。



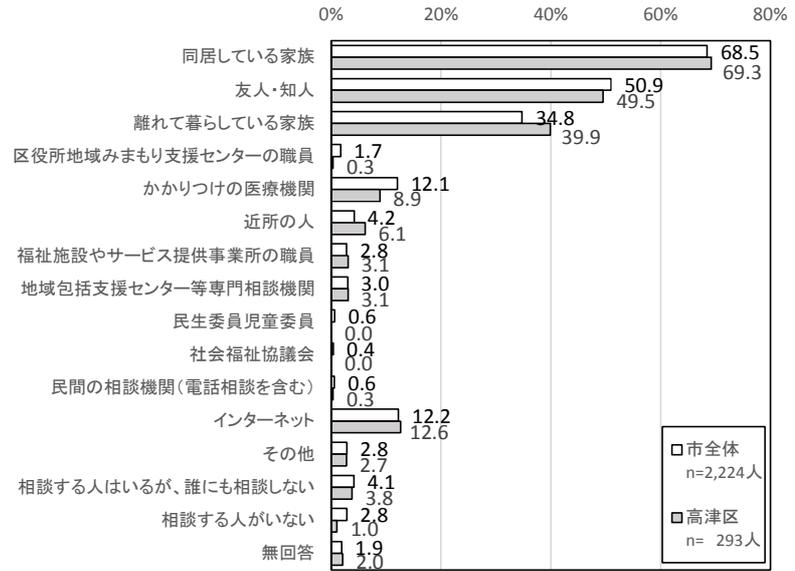
【参考】



問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに〇）

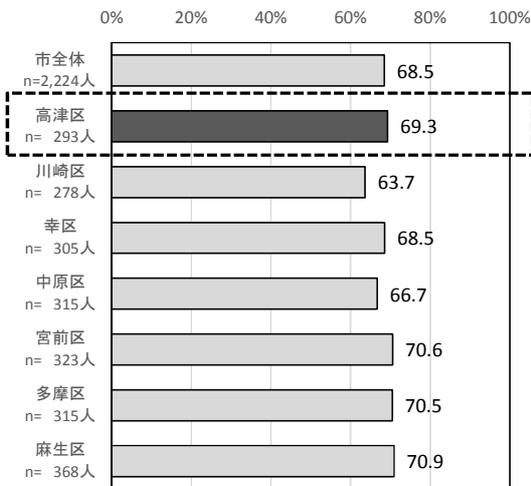
高津区では、では、「同居している家族」が69.3%で市全体（68.5%）を上回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」は4番目に高い。また、「友人・知人」は3番目に低く、「離れて暮らしている家族」は1番高くなっている。

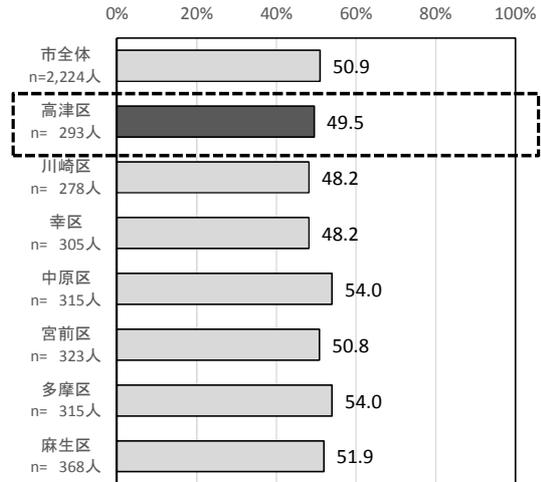


【参考】

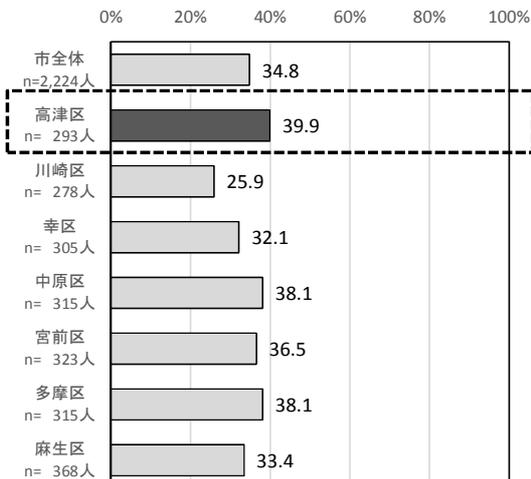
同居している家族



友人・知人

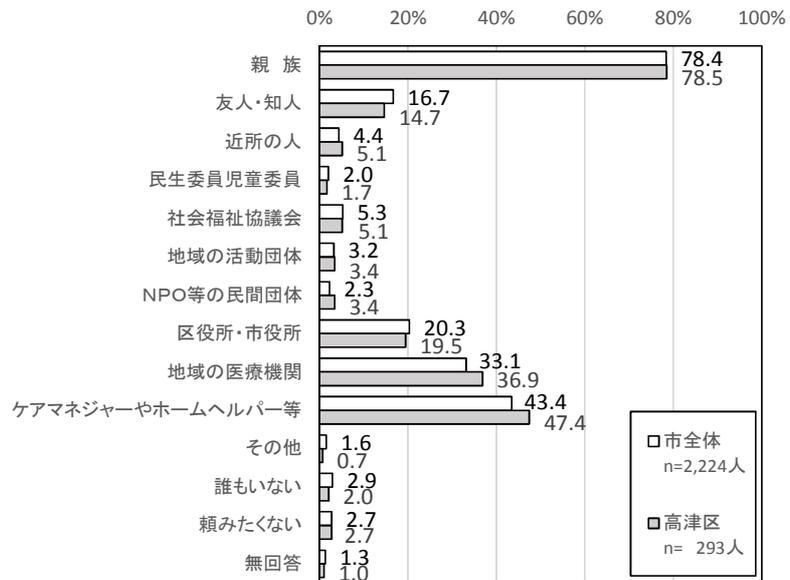


離れて暮らしている家族



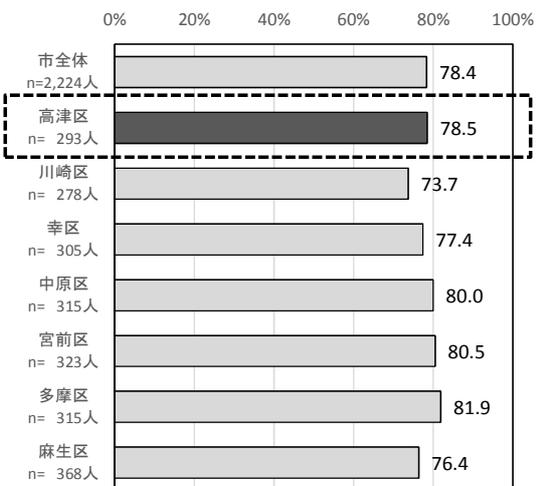
問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に助けを頼みたいですか。（3つまでに○）

高津区では、「親族」が78.5%で、市全体（78.4%）とほぼ同じである。市内6区と比較すると、「親族」が78.5%と4番目に高い。また、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」（47.4%）は最も高く、「地域の医療機関」（36.9%）で2番目に高くなっている。

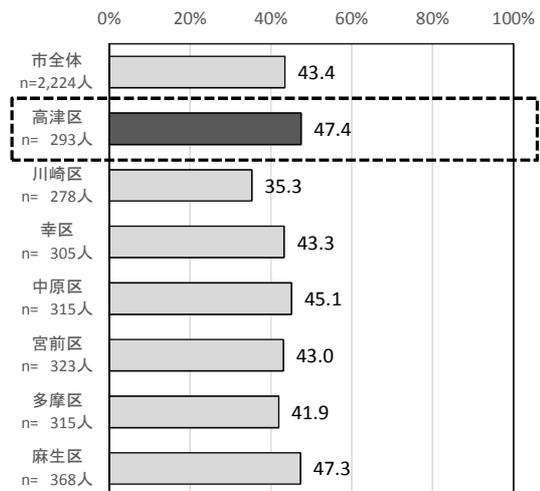


【参考】

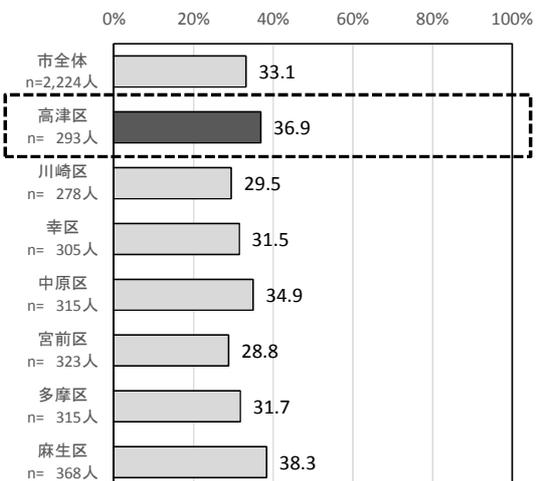
親族



ケアマネジャーやホームヘルパー等



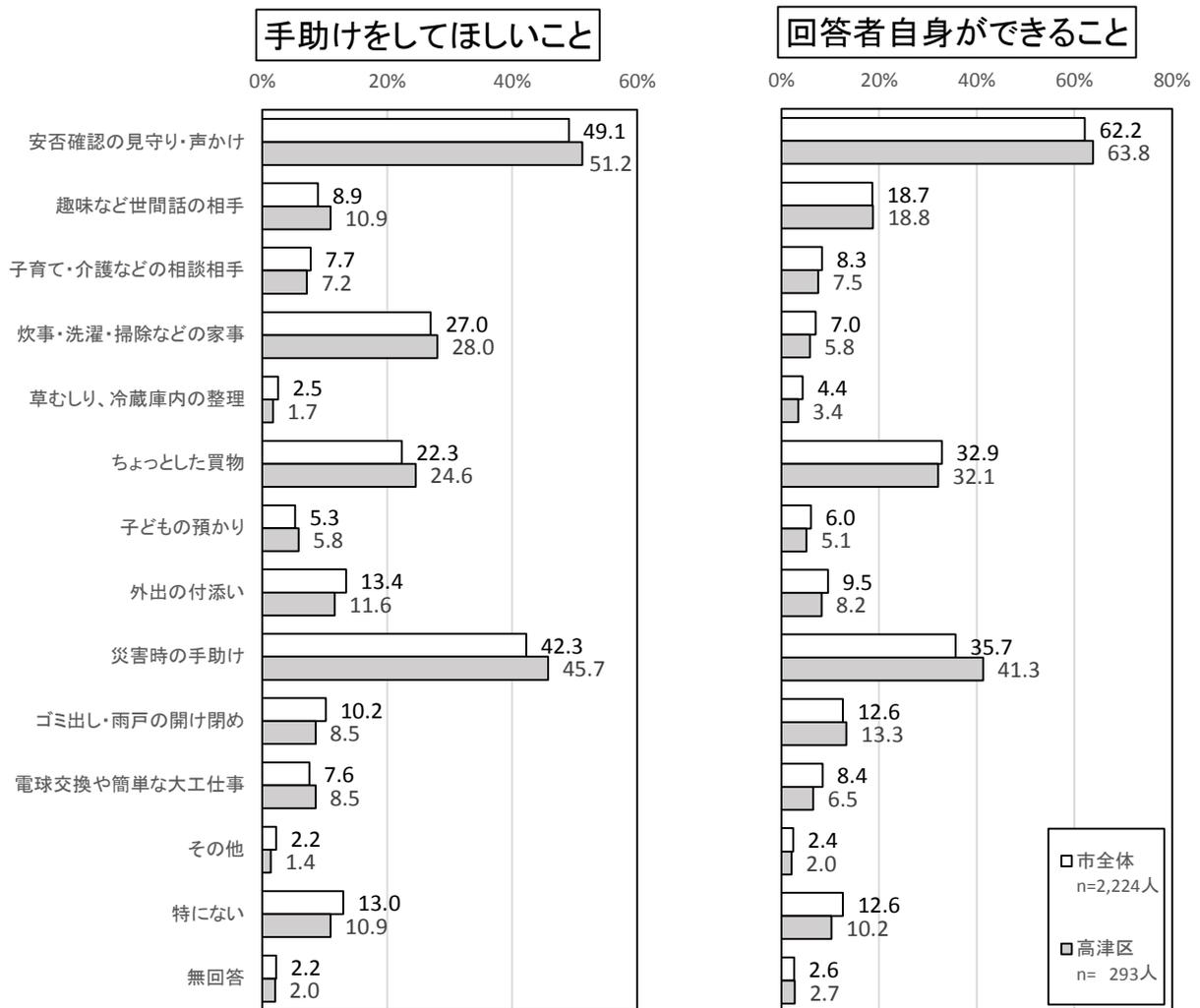
地域の医療機関



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

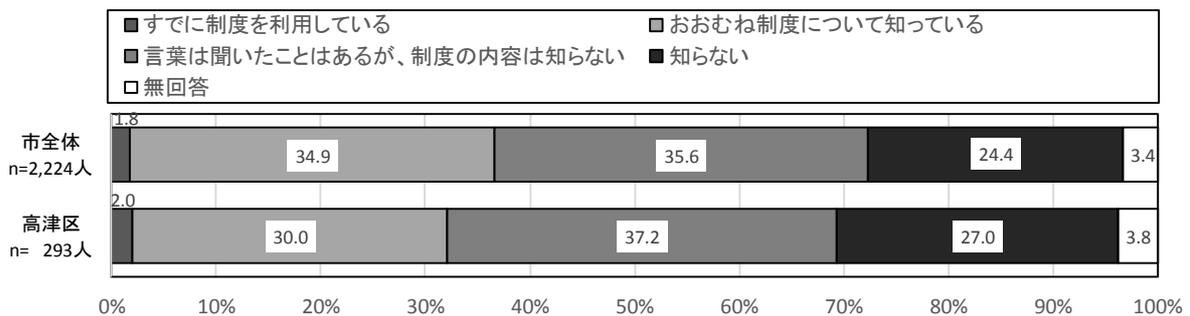
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

高津区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が51.2%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（45.7%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（28.0%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が63.8%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（41.3%）、「ちょっとした買い物」（32.1%）となっている。



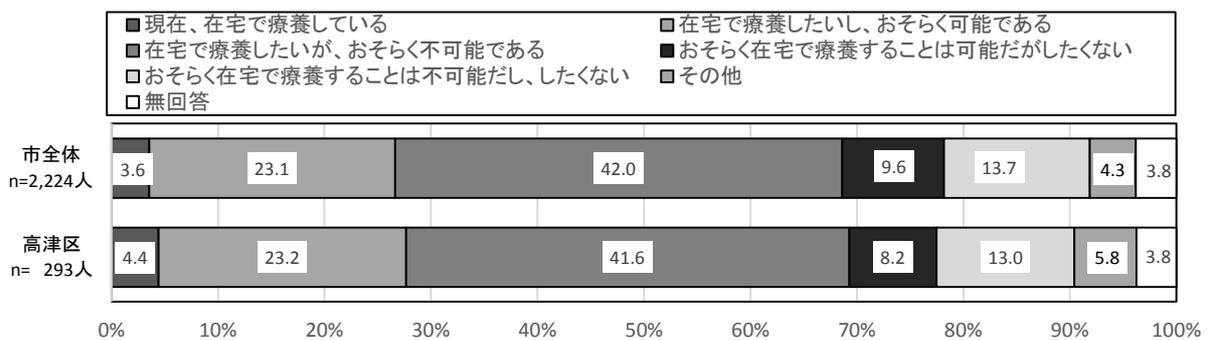
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（1つに○）（新規設問）

高津区では、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が37.2%で最も高く、次いで「おおむね制度について知っている」（30.0%）、「知らない」（27.0%）となっている。



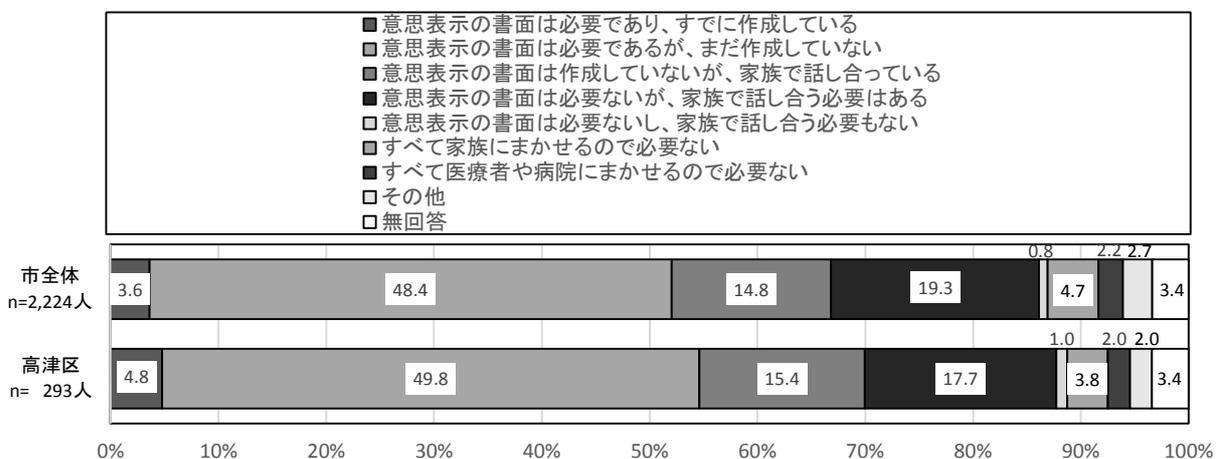
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。（1つに○）（新規設問）

高津区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が41.6%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」（23.2%）、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」（13.0%）となっている。



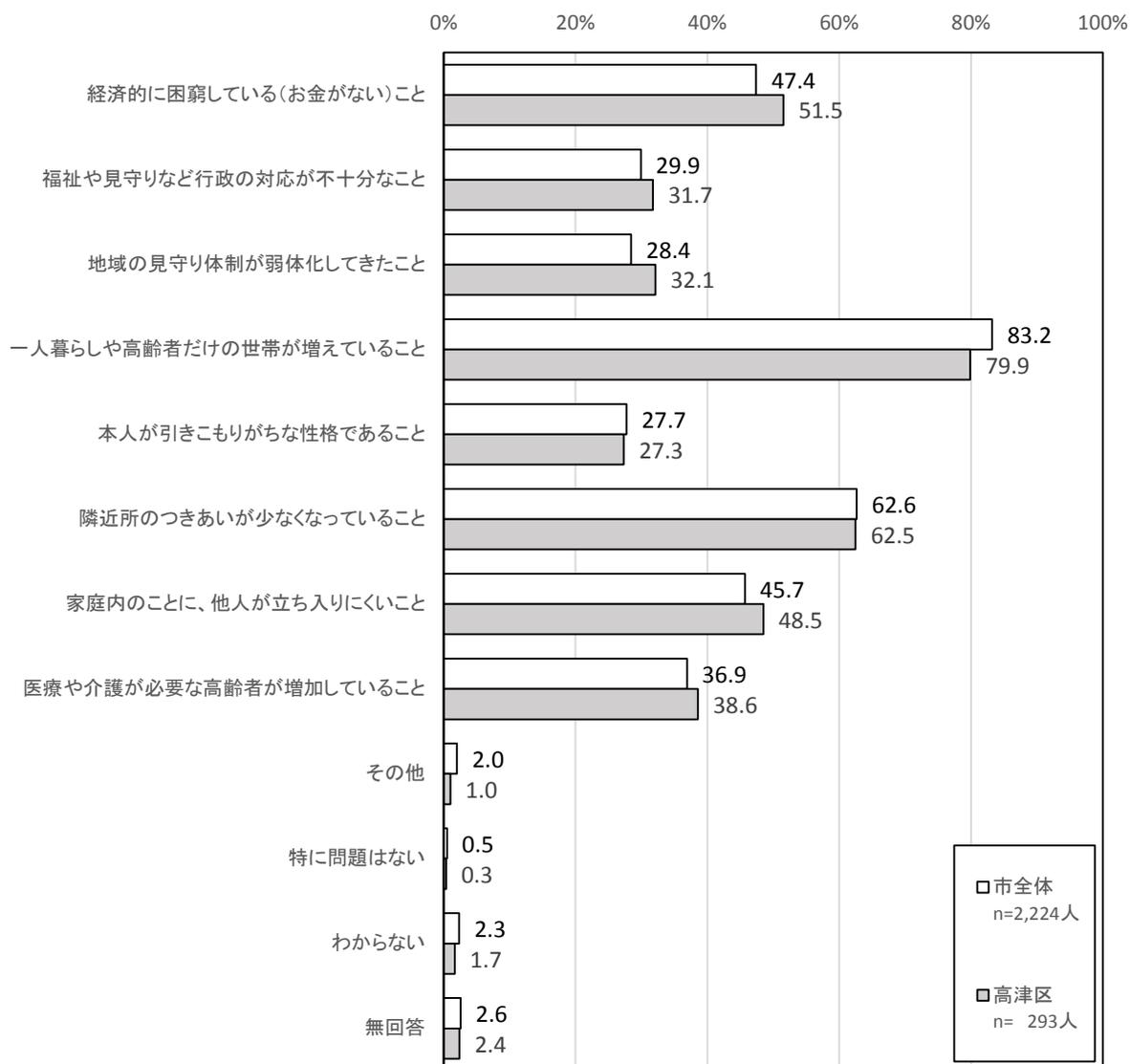
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（1つに○）（新規設問）

高津区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が49.8%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」（17.7%）、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」（15.4%）となっている。



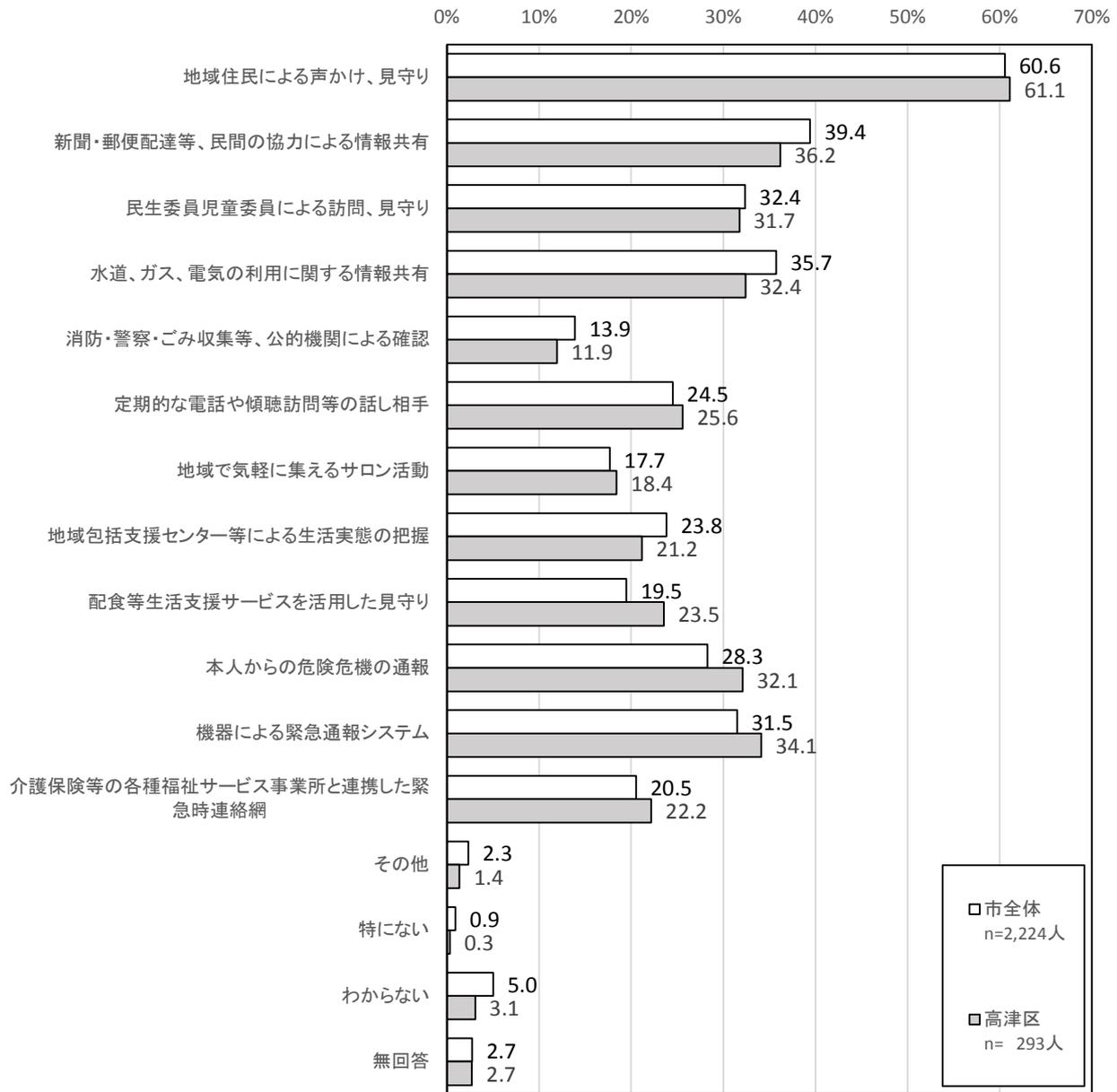
問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が79.9%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」(62.5%)、「経済的に困窮している(お金がない)こと」(51.5%)となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

高津区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が61.1%で最も高く、次いで「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(36.2%)、「機器による緊急通報システム」(34.1%)となっている。

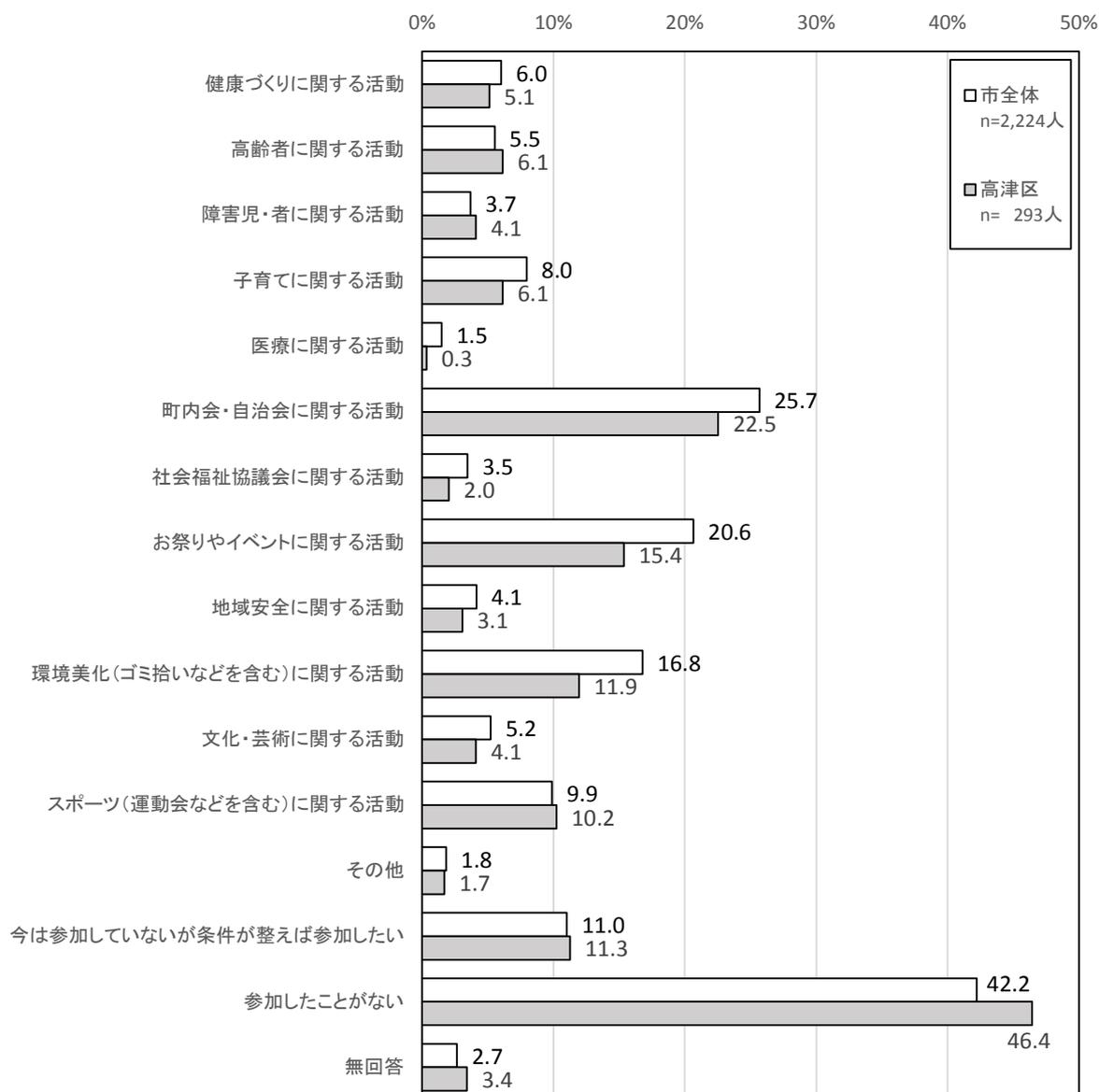


4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

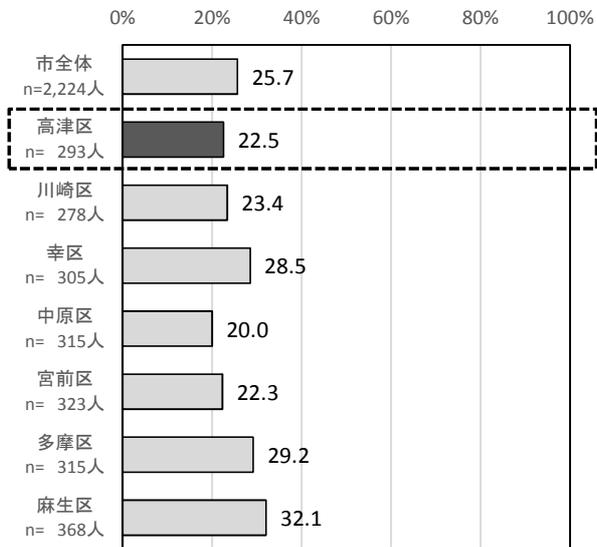
高津区では、「参加したことがない」の割合が46.4%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（22.5%）、「お祭りやイベントに関する活動」（15.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「参加したことがない」の割合については46.4%で川崎区（35.3%）、中原区（41.0%）に次いで3番目に低くなっている。また、「町内会・自治会に関する活動」22.5%で3番目に低く、「環境美化に関する活動」（11.9%）、「社会福祉協議会に関する活動」（2.0%）で2番目に低い。

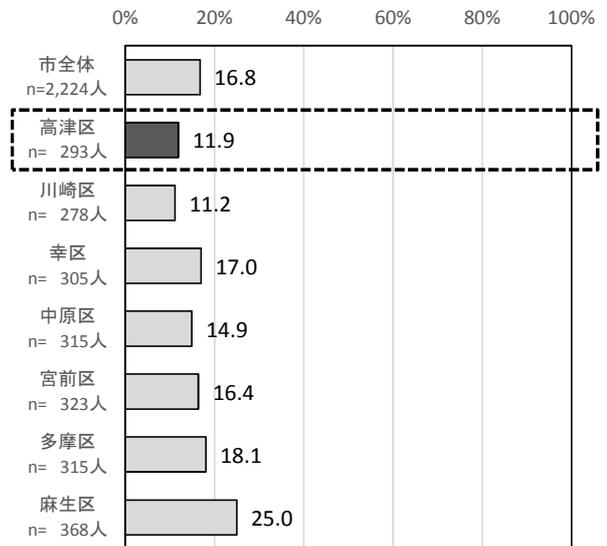


【参考】

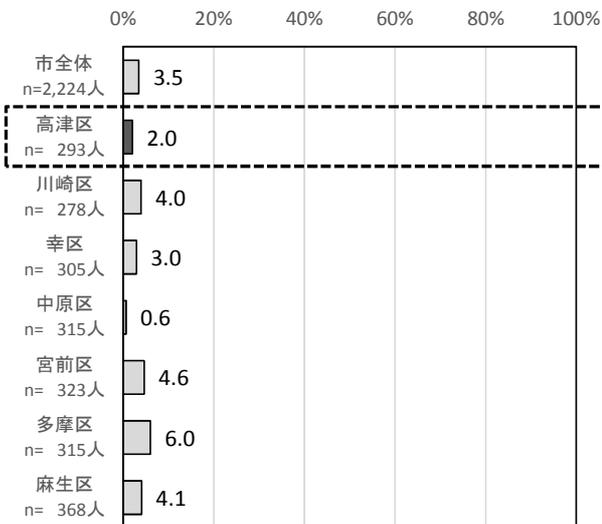
町内会・自治会に関する活動



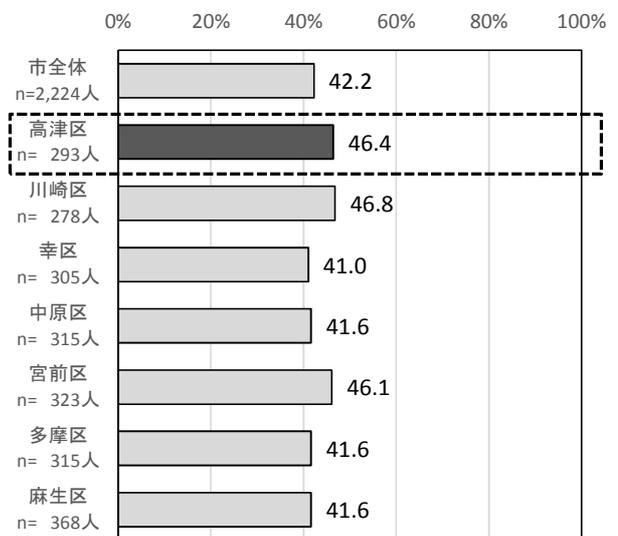
環境美化に関する活動



社会福祉協議会に関する活動



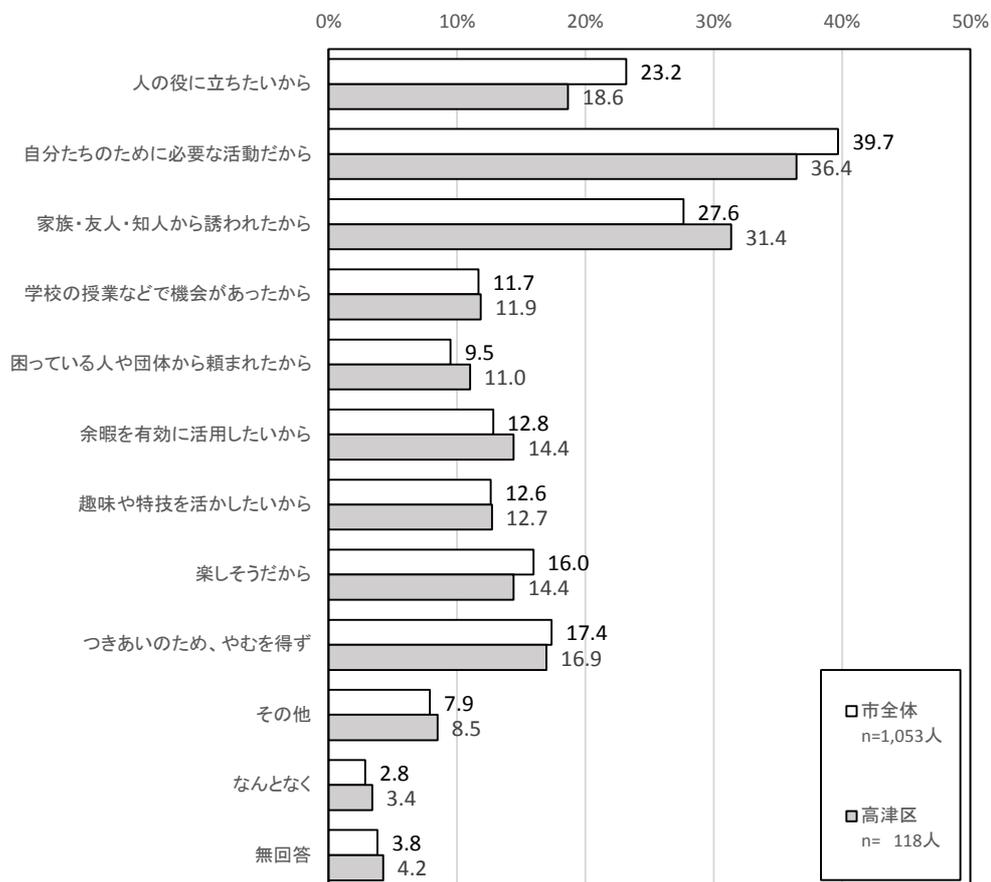
参加したことがない



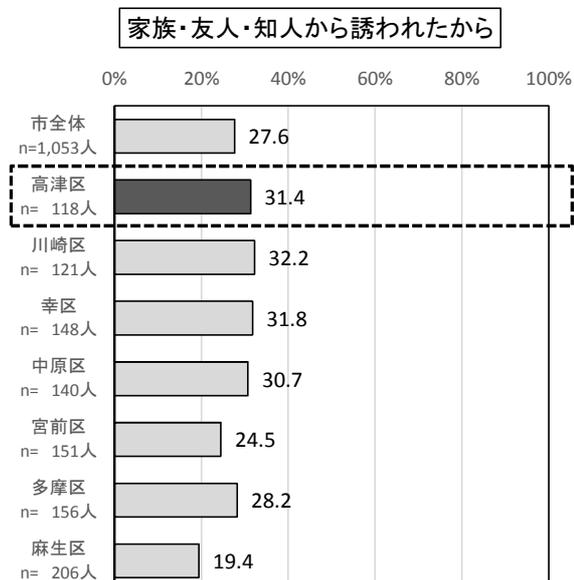
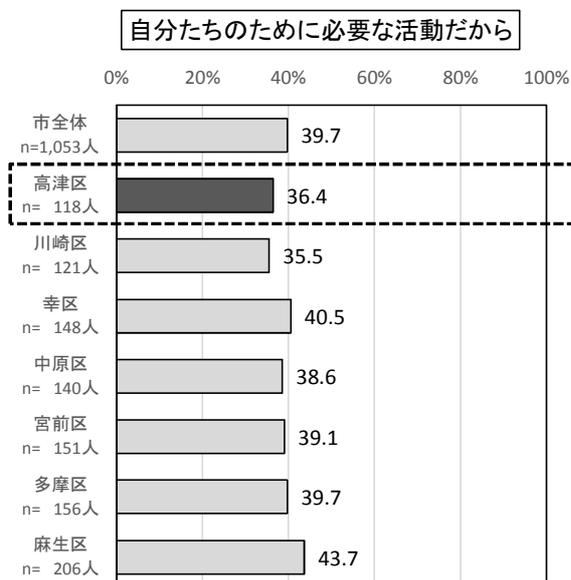
問31-1 《問31で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が36.4%で最も高く、次いで「家族・友人・知人から誘われたから」（31.4%）、「人の役に立ちたいから」（18.6%）となっている。

市内6区と比較すると、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が36.4%で2番目に低く、「家族・友人・知人に誘われたから」の割合が31.4%で3番目に高い。



【参考】

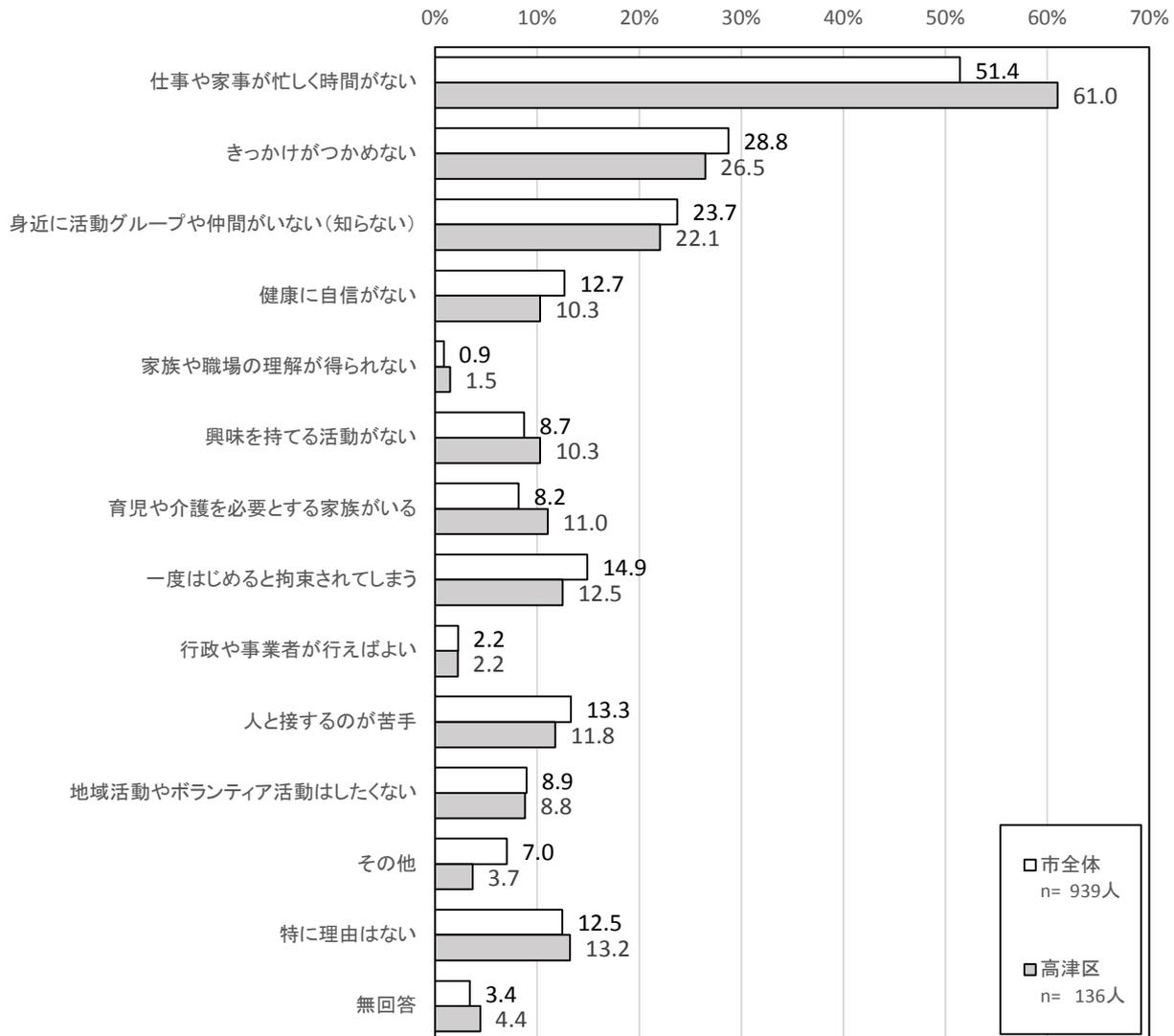


問31-6 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が61.0%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」（26.5%）、「身近に活動グループや仲間がいない（知らない）」（22.1%）、となっている。

市全体と比較すると、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合61.0%は、市全体の割合51.4%を9.6ポイント上回っている。

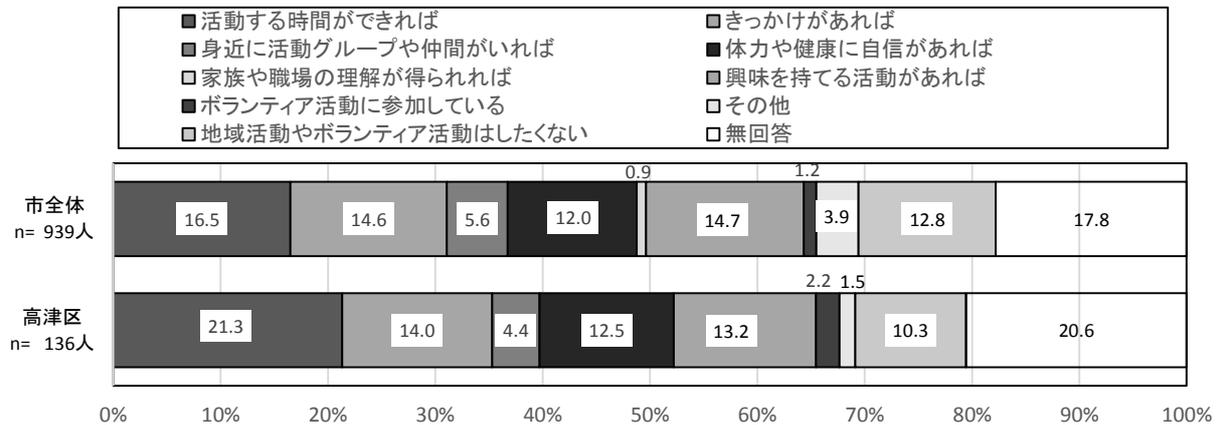


問31-7 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

高津区では、「活動する時間ができれば」の割合が21.3%で最も高く、次いで「きっかけがあれば」(14.0%)、「家族や職場の理解が得られれば」(13.2%)となっている。

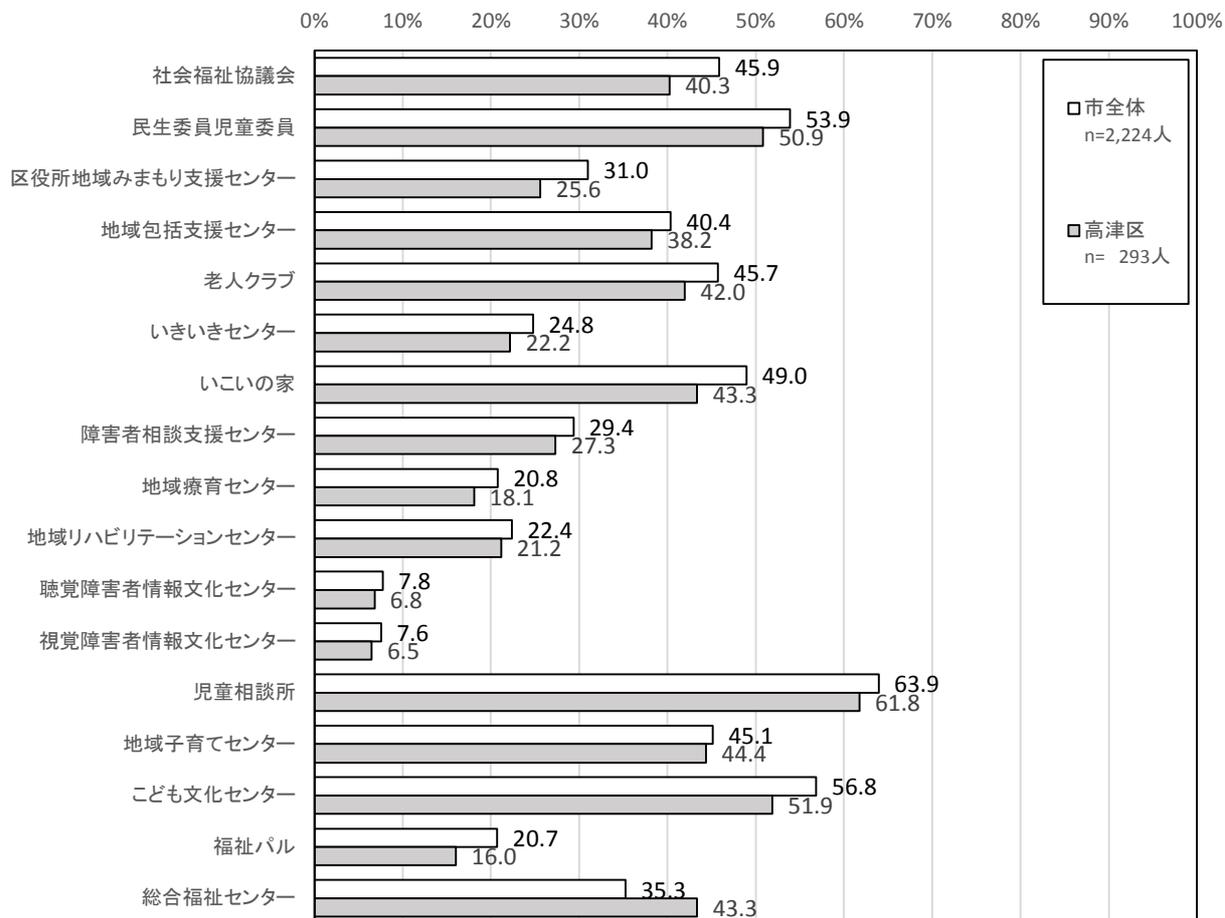
市全体と比較すると、「活動する時間ができれば」の割合21.3%は、市全体の割合16.5%を4.8ポイント上回っている。



5. 保健・福祉に関することについて

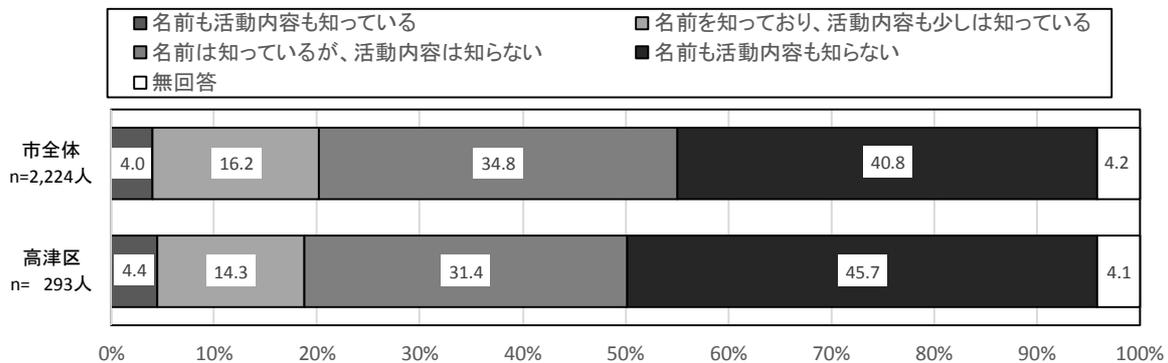
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。（団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○）

高津区では、「児童相談所」の割合が61.8%で最も高く、次いで「こども文化センター」（51.9%）、「民生委員児童委員」（50.9%）となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。(1つに○)

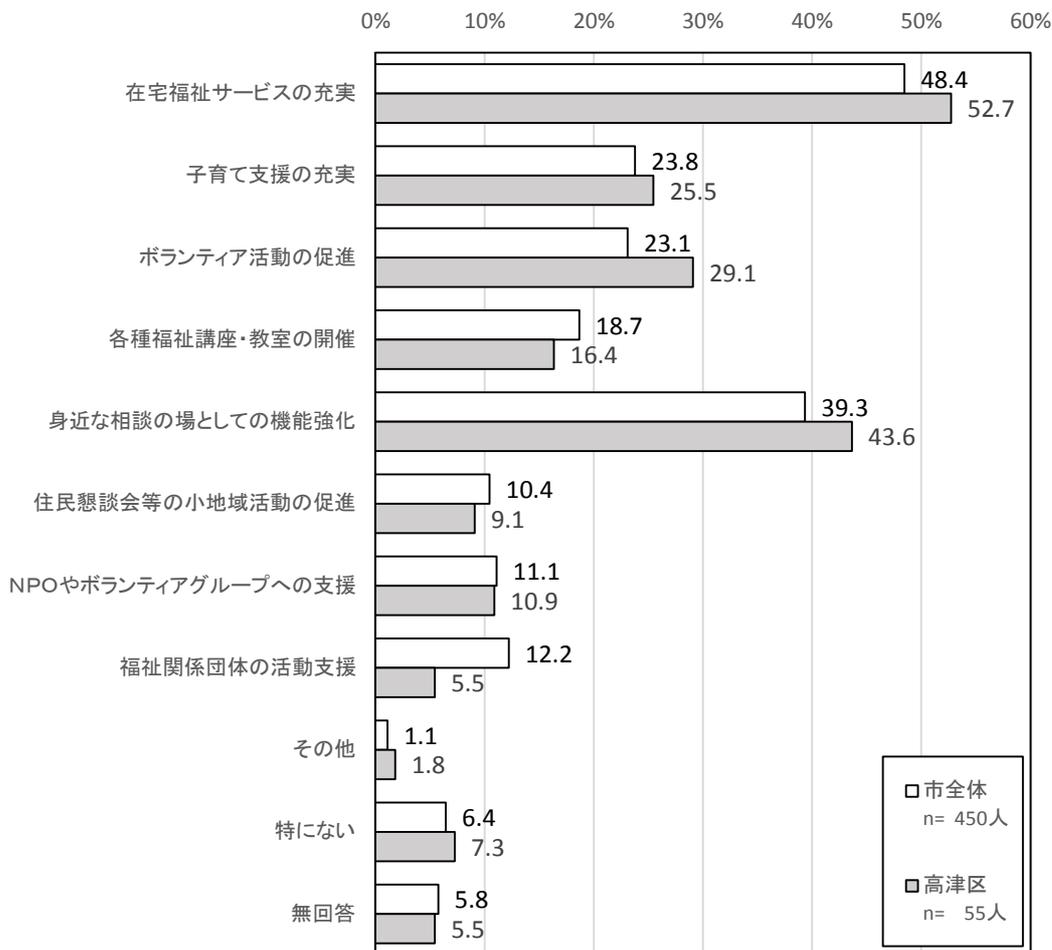
高津区では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が18.7%で、市全体(20.2%)を下回っている。



問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

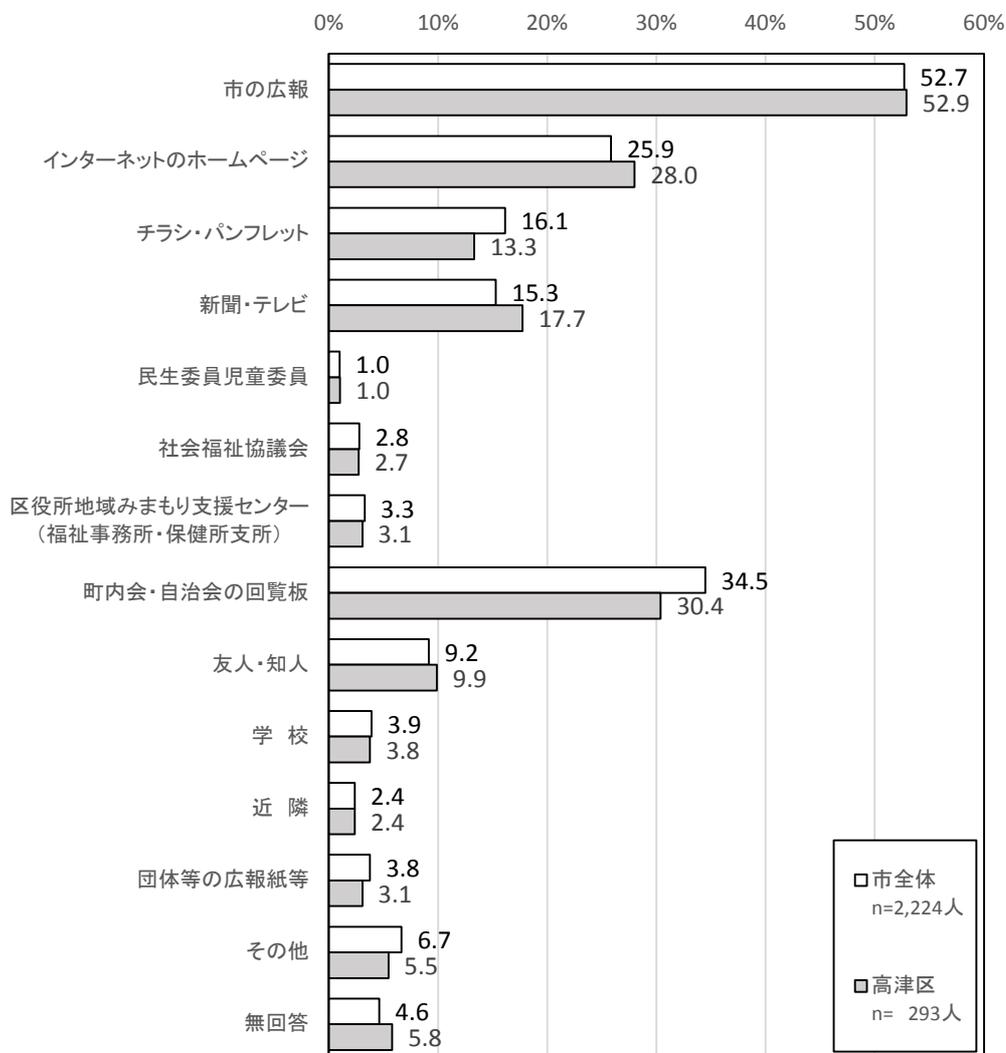
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

高津区では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が52.7%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」(43.6%)、「ボランティア活動の促進」(29.1%)となっている。



問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

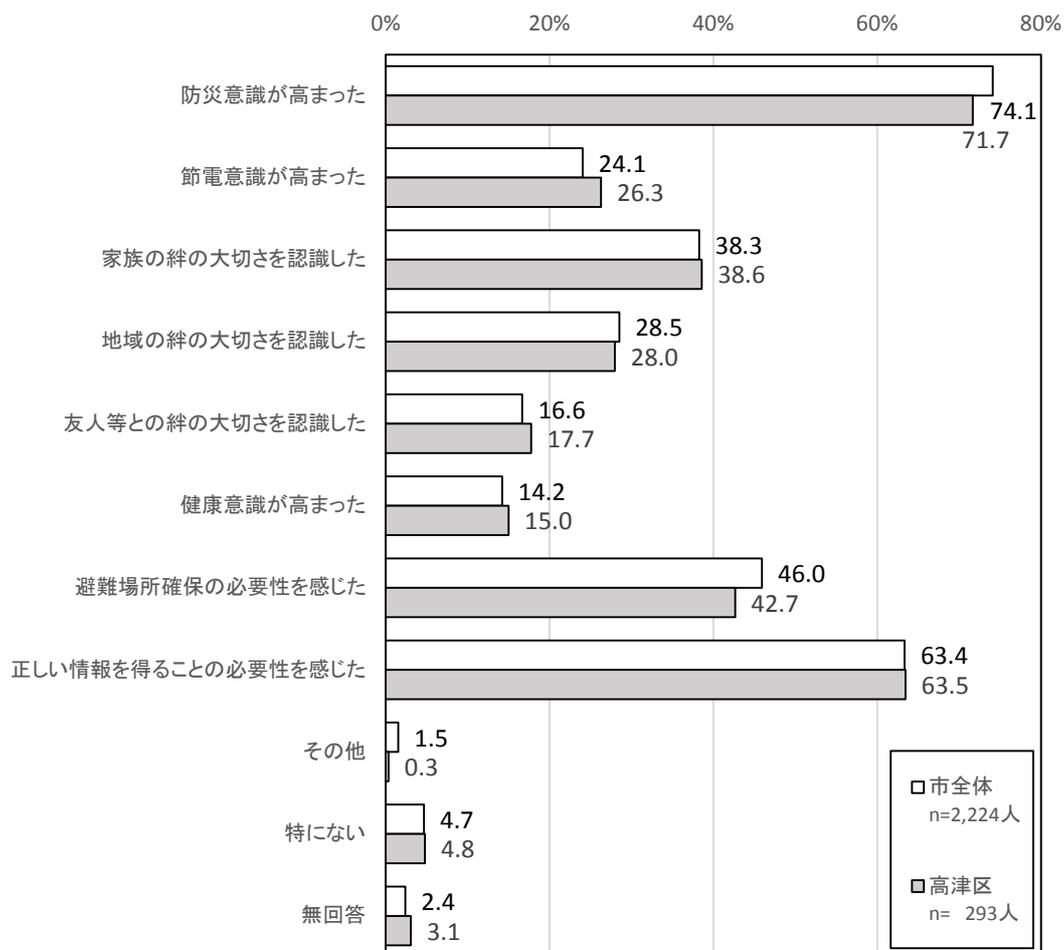
高津区では、「市の広報」の割合が 52.9%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(30.4%)、「インターネットのホームページ」(28.0%)となっている。



6. 東日本大震災後の意識の変化について

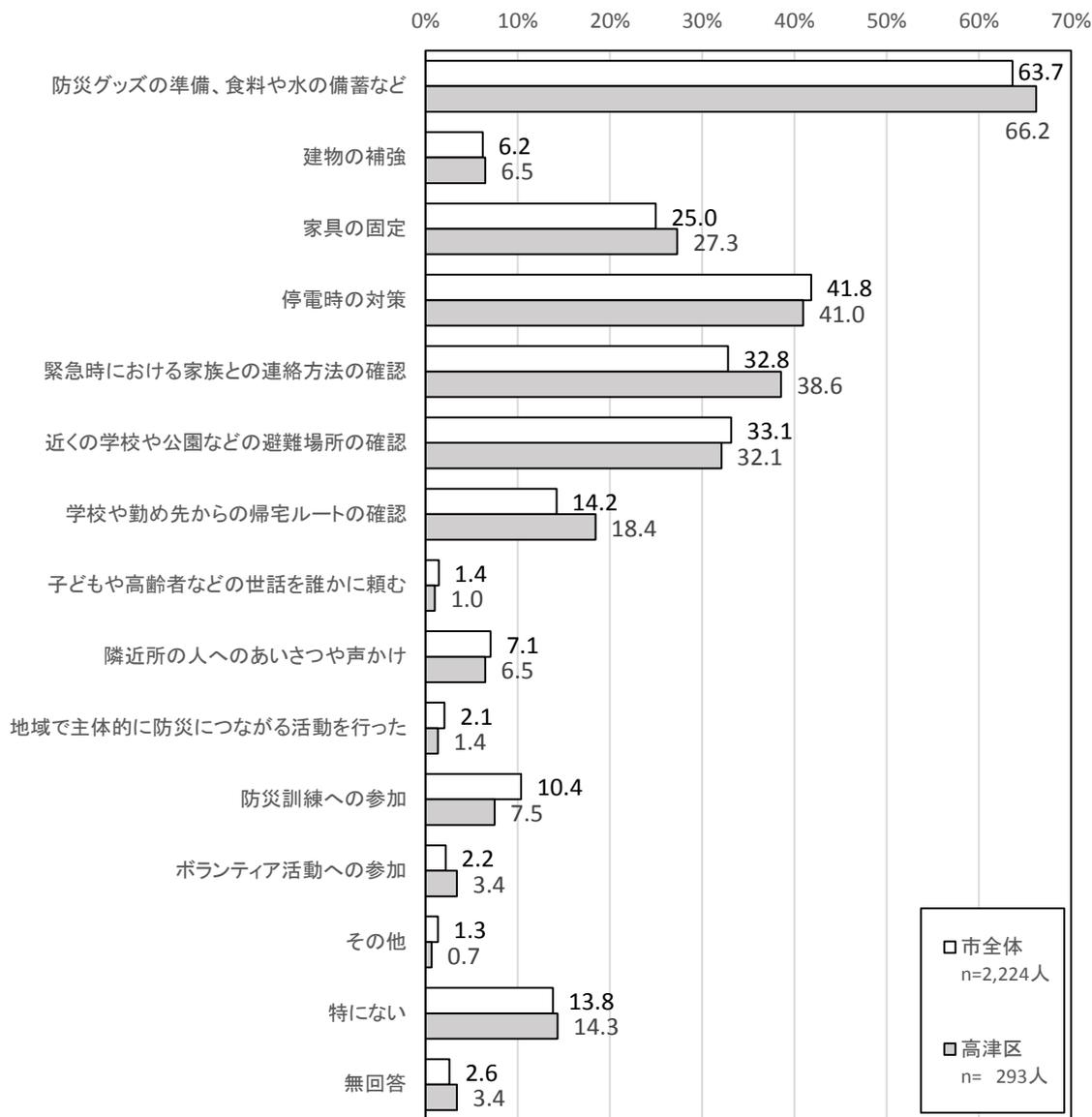
問 36 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

高津区では、「防災意識が高まった」の割合が 71.7%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(63.5%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(42.7%)となっている。



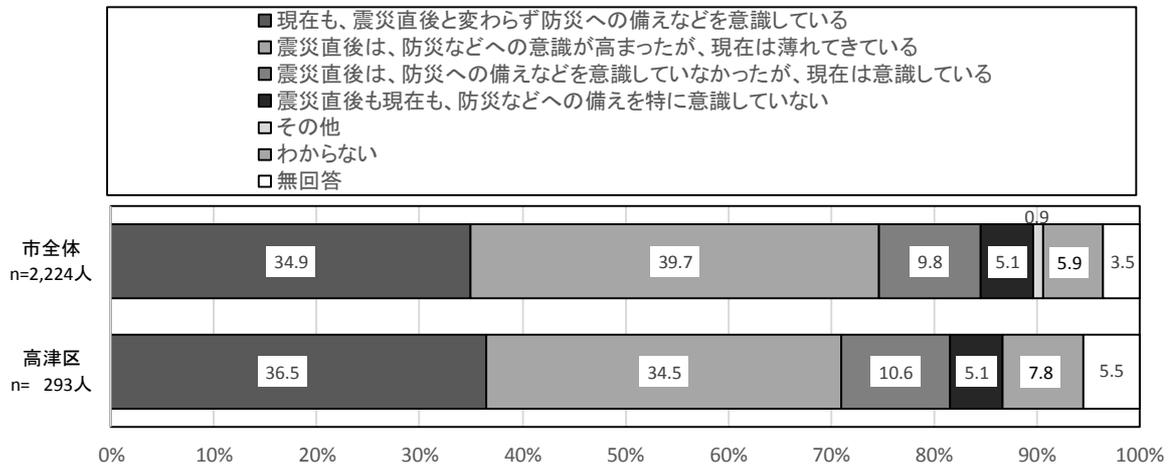
問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

高津区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が66.2%で最も高く、次いで「停電時の対策」(41.0%)、「緊急時における家族との連絡方法の確認」(38.6%)となっている。



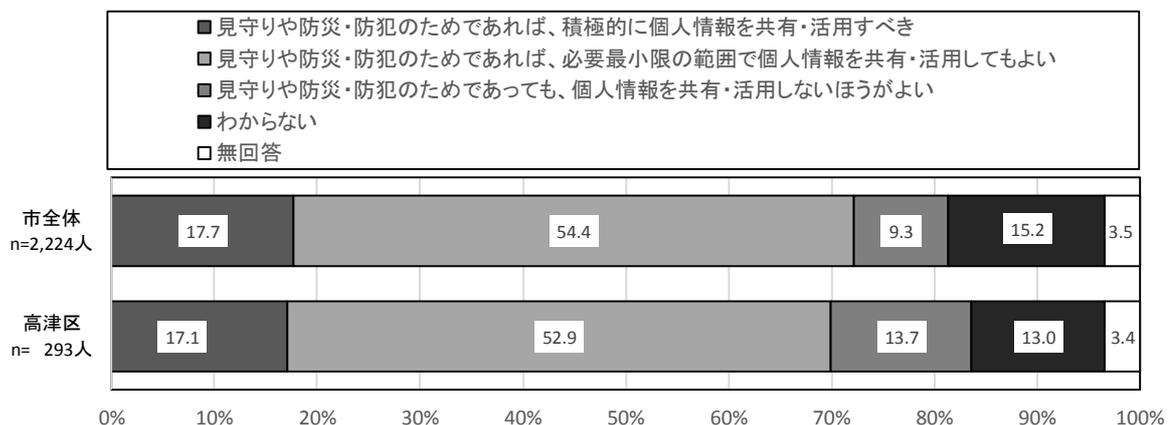
問 38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。
(1つに○)

高津区では、「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」の割合が36.5%で最も高く、次いで、「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」(34.5%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(10.6%)となっている。



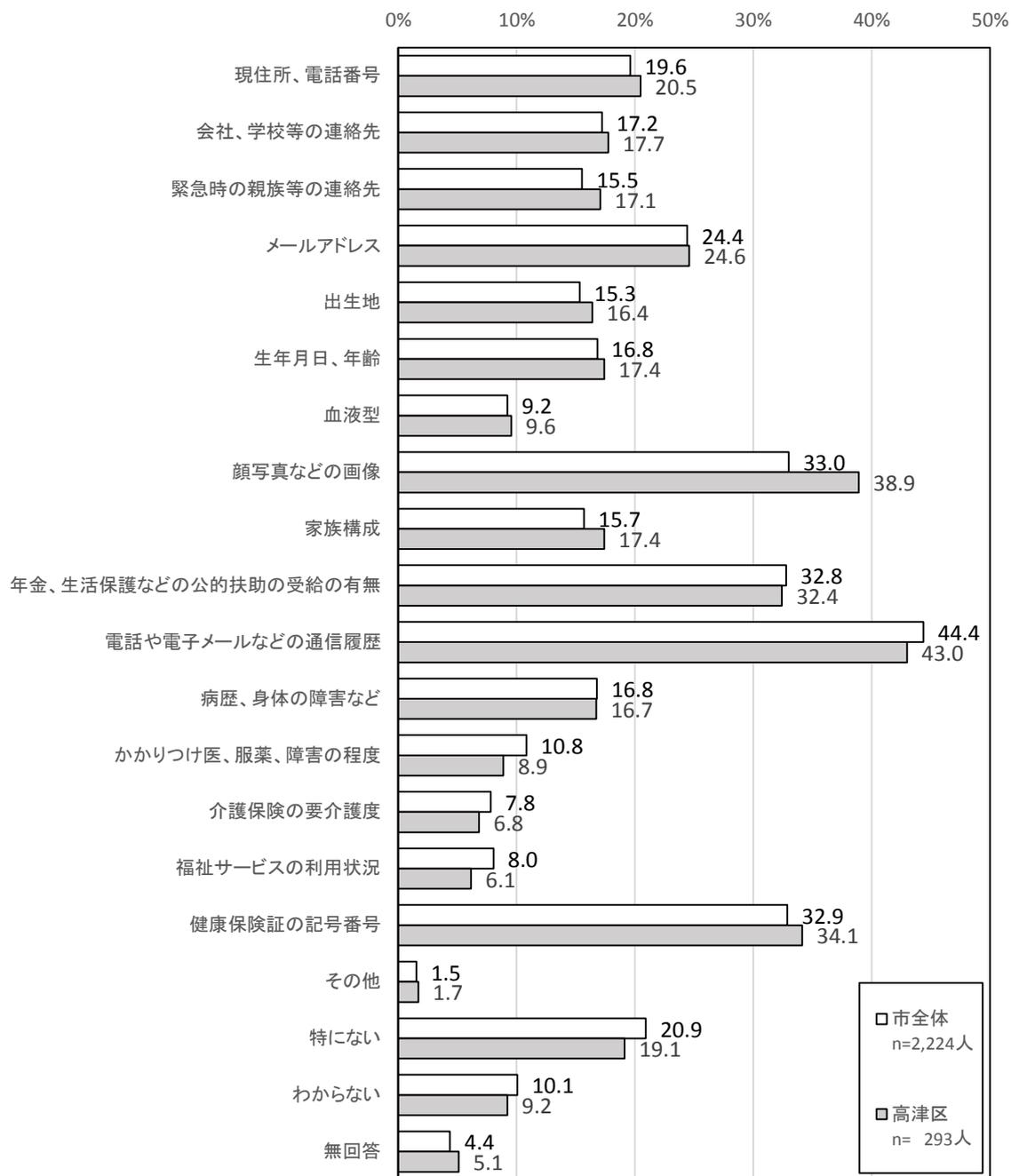
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

高津区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」、「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が70.0%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

高津区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が43.0%で最も高く、次いで「顔写真などの画像」(38.9%)、「健康保険証の記号番号」(34.1%)となっている。

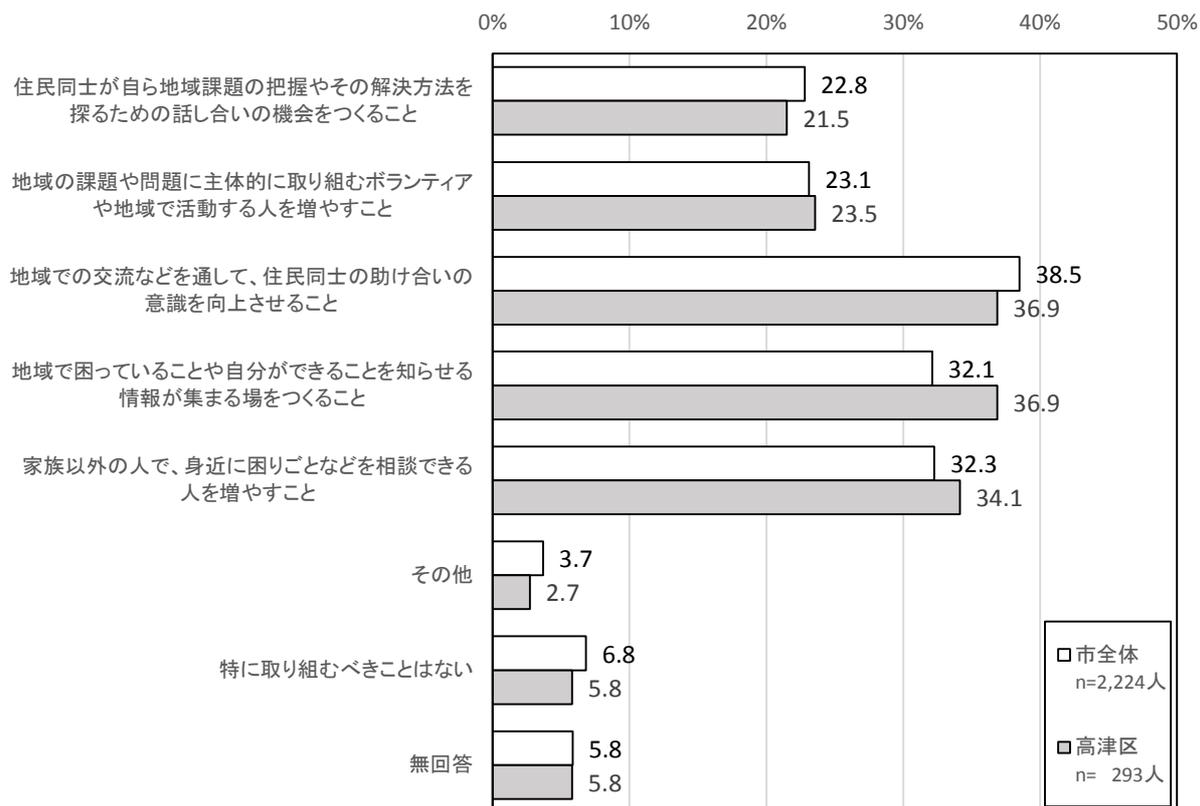


7. 今後の地域福祉の推進について

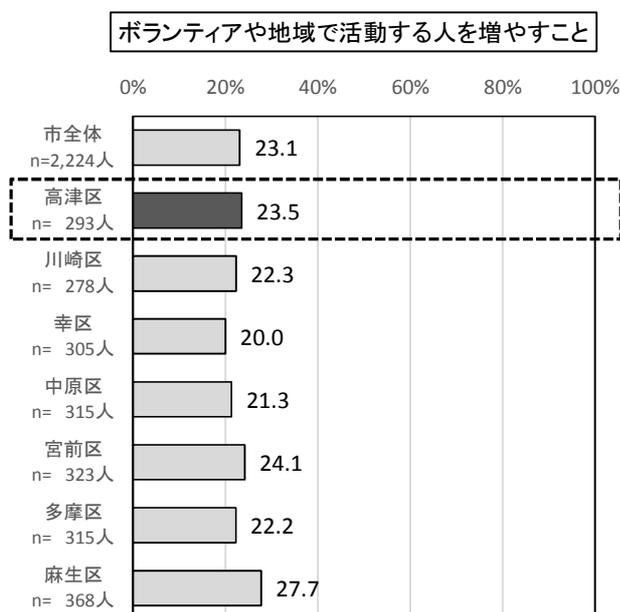
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」及び「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」の割合が 36.9%で最も高く、次いで、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（34.1%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する人を増やすこと」の割合が 23.5%で3番目に高い。



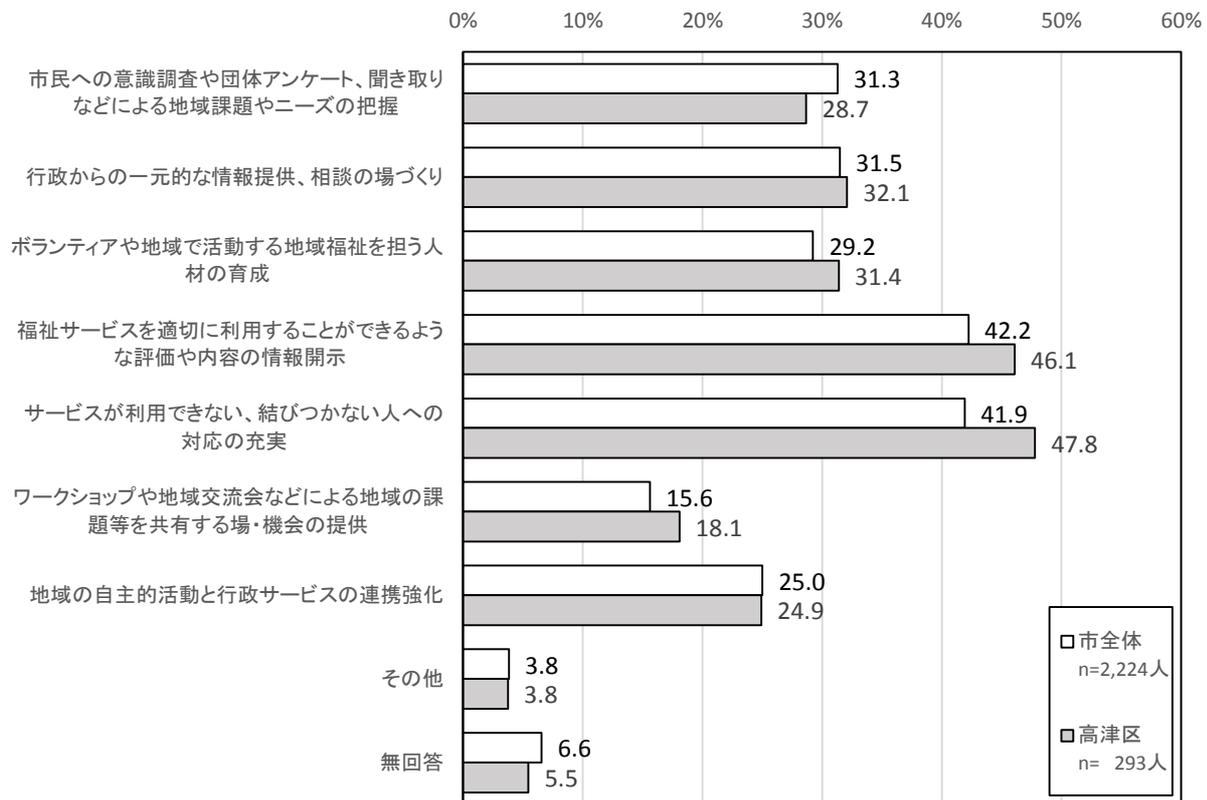
【参考】



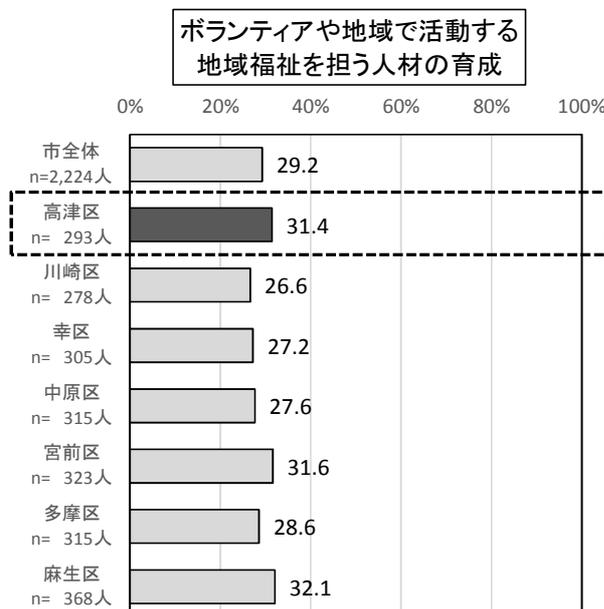
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

高津区では、「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」の割合が 47.8%で最も高く、次いで「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」（46.1%）、「行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり」（32.1%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」の割合が 31.4%で3番目に高くなっている。



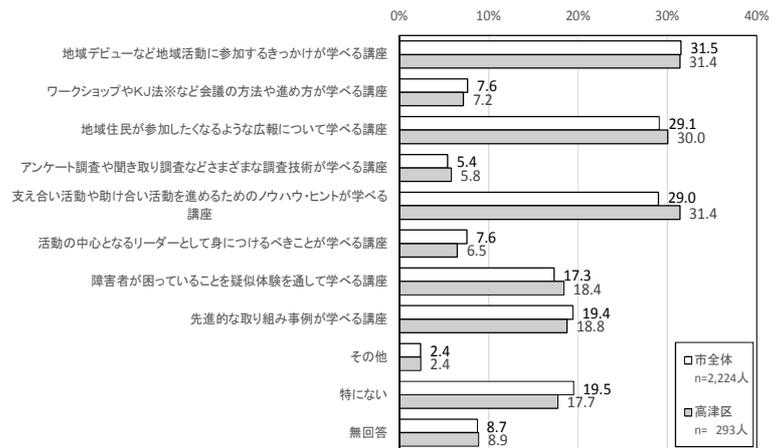
【参考】



問 44 今後、地域福祉を促進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてまでに○）

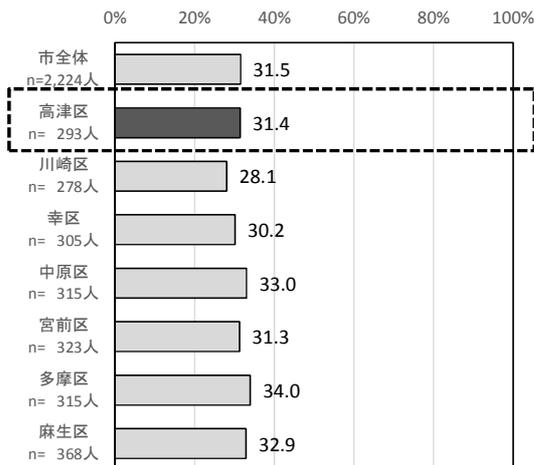
高津区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が 31.4%で市全体（31.5%）とほぼ同じであり、「支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」が 31.4%で市全体（29.0%）を上回っている。

全市6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」は 31.4%と4番目に高く、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」は 30.0%と2番目に高い。また、「支え合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」

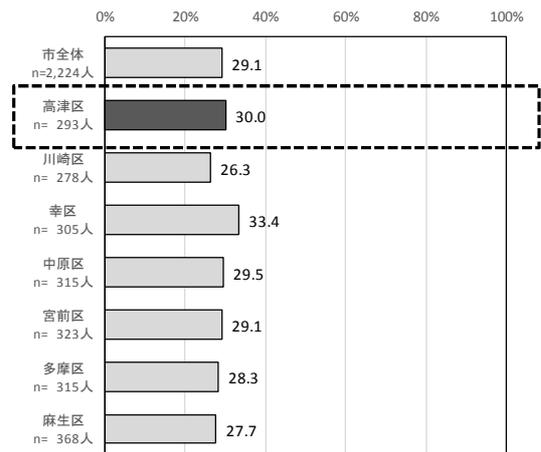


【参考】

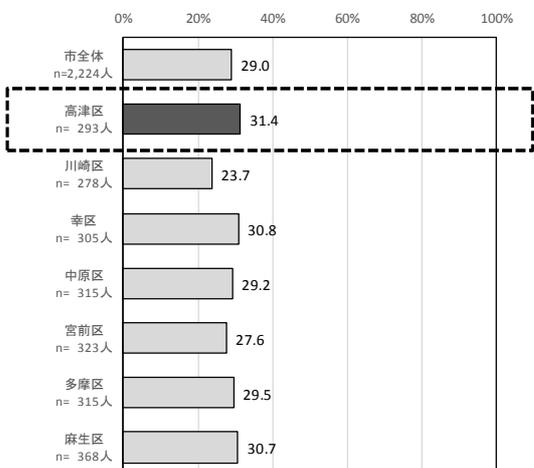
地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座



地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座

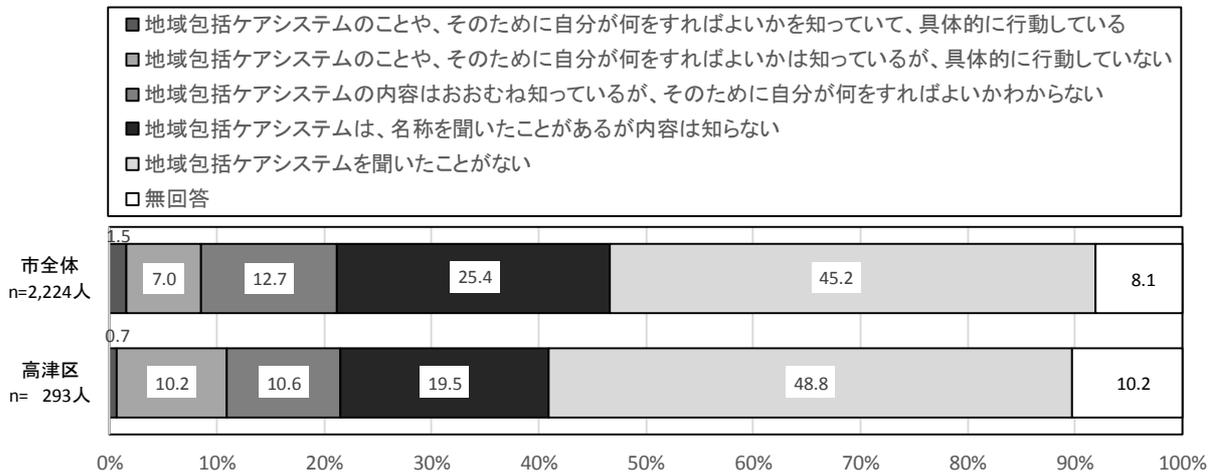


支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。（1つに○）

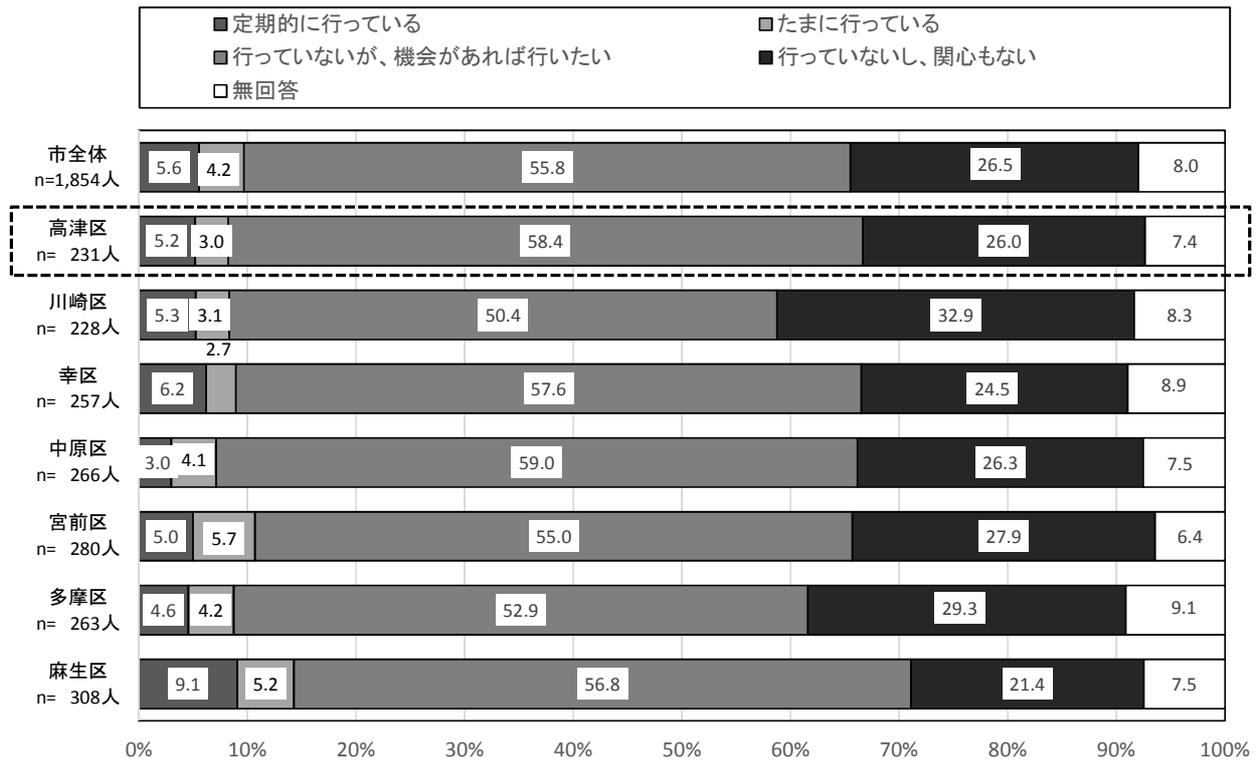
高津区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が48.8%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」（19.5%）、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」（10.6%）となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあります。このような行動を行っていますか。(1つに〇)

高津区では、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計が8.2%で市全体(9.8%)を下回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計は中原区(7.1%)に次いで2番目に低くなっている。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	18
2. 地域防犯・防災に関する問題	20
3. 高齢者に関する問題	25
4. 地域のつながりに関する問題	14
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	14
6. 障害児・者に関する問題	1
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	1
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	3
9. 健康づくりに関する問題	1
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	3
11. その他	10

1. 子どもに関する問題（18件）

区役所管内

	内容
1	子どもたちが遊べる公園、スペースが少ない（他5件）。大人の理解が得られない（うるさい危ない等言われる）。
2	待機児童問題（特に認可保育園）道が狭く特に通学路に車が多い。
3	小学生、小さい子両方にとって遊ぶ場が減っているように感じる。
4	町内に児童館がない。
5	子どもが思いきりボール遊びなどできる広場（公園）が少ないので、結局、マンションの前の道路や駐車場などで遊んだりして危険だと思う。
6	両親の離婚による母子家庭の貧困。子どもの犯罪。笑顔の少ない子ども。
7	末長小学校の校庭が狭い。
8	近所に大声で子どもをしかっているお母さんがいる。虐待程ではないと思うが、あまりにヒステリックで気になる。そのお母さんと、どの様に接していいか、また、子どもには「何かつらい時にはいつでも来て良いからね」と言える程親しくない事が今気がかり。

橘出張所管内

	内容
1	子どもの虐待がなくなるよう優先して取り組んでほしい。
2	近所で子どもの泣き声を聞くことが多い。虐待とまでは考えないが親の育児ストレスを考えるとどこかで解消できているだろうか心配。
3	保育園などの問題。
4	公園で盗難にあい、それ以来安心して遊べない。行きたがらなくなった。
5	悠々とボールで遊べる場所がない。放課後、小学校の校庭を開放してほしい。小中学校の正門に常時、警備員を配置してほしい。

2. 地域防犯・防災に関する問題（20件）

区役所管内

	内容
1	エレベーターホールの中の壁紙（厚手のカーペットの様なもの）がナイフで切られたり、全部はがされていてそのまま放置されていて車イスで通れなかったことがある。
2	溝の口駅周辺の治安の悪さ。西口商店街の歩道上への立飲みスペース拡大によるたばこの危険、自転車への接触が大変危険に感じる。立小便のマナーの悪さ。
3	家の近くでは不審者情報が絶えません（他1件）。子ども110番の意味を教えるとともに、下校時の大人の見守りなどが大事だと思います。
4	治安がいいとはいえない地域（実際夜恐い思いをすることがあるが）であるのに、安心してすごせるような目に見える対策がとられていないこと（街灯がない道、細道を猛スピードで通りぬける車両、深夜大声でさわいで歩く若い人等、とてもめいわくだし、近くにいると怖い）。
5	盗難が多い（他1件）。
6	私の住む地域は、自転車の数が多く、無灯火や猛スピードで後方から来られるとヒヤッとするのが度々あり、これから、どんどん加齢していく自分が、背後からの気配にどれだけ俊敏に対応できるか不安である。
7	お年寄りと園児が公園にたどり着くまでにバス通りがある。もう少し交通の時間規制を設けた方がよい。
8	台風19号の時、どこに避難してよいかわからなかった（他1件）。ハザードマップが配られていなくて情報が得られず心配だった。
9	台風などの災害が続いたため。駅前で子どもが車にぶつかりそうになっているところを目撃したため。
10	台風19号による浸水被害の時、状況や情報共有などがされなく対応の遅さに不信感を覚えました。
11	災害時（増水等）に関する対策。訓練等。

橋出張所管内

	内容
1	個人情報優先され、同じマンション内でも名前を出さない風潮が強い。
2	最近、不信なTEL（固定）や訪問販売が多くなっている。
3	家が建て込んできており火の用心、防災訓練etcが必要。
4	通学路の信号のない横断歩道など。
5	大きな災害が起こった時の地域レベルでの細かなシミュレーションはできていないと思う。
6	震災、自然災害（台風など）火事の時、情報を共有できるのかという不安。

3. 高齢者に関する問題（25件）

区役所管内

	内容
1	一人暮らしをされている高齢者の方々に、足が不自由で歩行が困難な人もとときどき見かけます。そのような方たちに、支援や地域での見守り等が必要であると感じています（他1件）。
2	自分が倒れたりした後の事を考えると不安になります。
3	特に高齢者など体が不自由、認知症などの方が日常生活（買い物、ゴミ出し、公共料金支払い、通院など）が困難な人が増加している点が問題。
4	いざという時にお互いに助け合いたい。
5	一人暮らしの人が日常の不安をかかえている。
6	介護施設の不足。防災訓練においても高齢化社会で実際、肉体の機能も衰えている状態で困難を感じる。
7	自分を含め定年後の生きがいづくりに不安があります。

	内容
8	高齢者だけが住んでいて町会の役員になっても、きちんとケア（普段の生活）できない。歩行も困難な人にとって気軽に談話ができる施設がそばにあればいいと思う。国や町会ではつながりを持てる施設があるが、そこには遠くて行けないという状況なので、移動販売車のような移動談話車があり、身近な人たちが交流をもてるような仕組みがあるとよいと思います。
9	高齢者が多くあまり近所づきあいもない。
10	町会に若い人が参加していない。
11	ご高齢の方をおみかけするので、雑談が出来るようなコミュニティなどはあるのだろうかとし心配になることもあります。特に問題というレベルではないのかもしれませんが。
12	マンション内でも一人暮らしのお年寄りがふえた。しばらく顔を見ない人がいると心配になる。また、家の中での小さな事、電球の取りかえなどが、できないと困っている人もいる。
13	地域に新設の老人ホーム、特養は入所高額で利益目的の私立が多く、低所得者が入所可能な処が少ない事。団地及び集合住宅においては、地域のつながり希薄の原因の一つとして老若混住があると考えられる。
14	将来の介護と仕事の両立。
15	自分自身が、60才過ぎているので、老後の事は気になります。特に介護、医療について。

橋出張所管内

	内容
1	高齢者が多い。坂がある地域で買い物が大変。コンビニしか近くにない。
2	老人ホームや育児支援。
3	高齢者の一人暮らし、痴呆症などでの事故や大災です。災害。
4	超高齢化社会に向けての制度、対策が今よりも必要と思います。お金＝寿命ではなく人は人との会話ができる社会を望みます（不自由なく）。
5	後期高齢者になり収入が年金のみとなり、もろもろの公費の値上げによる日常生活に直接かわる生活費の負担が多くなる事。特に、医療費の増額等のニュースを見るたび体の変化にすぐ受診する事をためらう事が多くなった。
6	バリアフリーが少ない。
7	災害時に備え、何が出来るか、地域のみまもり、ネットワークを良く知って行動したく思っております。
8	高齢者・障害者のいる家庭に専門的知識を持ったスタッフが家庭訪問することができれば介護者の力になれると思います（セラピストなど）。
9	高齢化が進み町内会、自治会のイベントに参加できない。自治会の中でみんなが参加できる事を考えていけたらよい。

4. 地域のつながりに関する問題（14件）

区役所管内

	内容
1	リーダーが少なくて発展しない。
2	町内会に加入している人が多々いるようで、地域活動やコミュニケーションをとる意識が薄いと感じる。
3	近所で話し合う場所がほしい。
4	地域の人たちとの関わる機会やタイミングがなく町内会イベントも昔からの住民のためにあるようでよそ者感がいなめません。
5	近くの家になんか人が暮らしているのか知らないこと（他2件）。
6	町会の行事に参加しにくい。
7	町内会、自治会がないので、まとめ役員等もおらず、地域で何か起きた場合、困ります。

橋出張所管内

	内容
1	核家族・共働きでは近所付き合いの時間がとれない。
2	地域のつながりに無関心な人が多い。
3	子ども会はあるが個々の事情で参加する人は少ない。役員をやりたくない等一部の人に負担がかかる。
4	交流する場、そして参加を呼びかける、世話役といった点がととのっていない気がする。
5	私の意識不足であります。日頃自分から積極的にコミュニケーションを地域の人と取らないので災害時に自分が地域にできることがわからないし、そのような活動の案内が親から伝わってこないのは問題だと感じています。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（14件）

区役所管内

	内容
1	サービスが提供されているかもしれないと思って調べる気があるものならいくらかでも知ることができるが、そうは思っても見ないものも多い。もっと広報してほしい（効果的に）。
2	活動がよくわからない。
3	情報発信が残念ながら届きにくく感じます（他1件）。もっと身近で声をかけやすいと良いと思います。
4	情報について気になることは自ら調べるが、知らない情報もある。いろいろな制度についてなど。
5	区役所でやっているイベントごとや子育て支援センターの良さ等を画像や動画で伝えられるはず。
6	回覧板など情報共有するコンテンツがない、来ない。
7	回覧板に有益な情報がない。
8	災害において行政の支援が少ない。

橋出張所管内

	内容
1	町内会、自治会があるのは知っているが、実際何をやっているのかしらない。
2	情報ほしくともわからずストレスが多くなり人との話も少なくなる傾向にあると感じますが。
3	チラシは捨てられてしまうため。
4	情報誌はあるがわかりにくい。
5	積極的に動けば情報は入ってくると思いますが、人づきあいが苦手な方、体調のすぐれないご高齢者などにはなかなか難しいものがあります。どのような情報がどこにアクセスすれば入手できるかの、1番表（リスト）のようなものが各戸に定期的たとえば年に4回とか継続的に配布されれば助かるかと思っています。

6. 障害児・者に関する問題（1件）

区役所管内

	内容
1	入所施設に入っている障害者が必要な運動等を行えない。

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（1件）

区役所管内

	内容
1	スポーツ施設。

8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題（3件）

区役所管内

	内容
1	何か問題がおきた時どこに相談していいかわからない。

橋出張所管内

	内容
1	生活上のお金の問題を抱えて途方に暮れている方がいる。相談できる所がなくて困っているように感じる。
2	アスペルガーの家族に”老後の心配”をどこに相談するか。

9. 健康づくりに関する問題（1件）

橋出張所管内

	内容
1	出産後孤立するお母さんが増えている。健康作りのための機会が少ない地域。

10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（3件）

区役所管内

	内容
1	民生委員のなり手が少ないのではないかと心配がある。民生委員が無報酬なのは無理があると思う。
2	外国人居住者向けの行政サービスの薄さ。
3	公営に住んでいる身として、集団生活において約束事を守らない人が多すぎる。申請や制度が不便。防犯や防災時の公営のあり方をそもそも伝え聞いた事がない。

11. その他（10件）

区役所管内

	内容
1	居住している建物の室内の老朽化によりかべなどの張り替えなどは個人持ちの為、新しく出来ない（費用など）。
2	路上駐車がかなり多く道も狭く、学校の通学路にもなっているのに道路が改善されない。電柱の地中化などの取り組み等がなければ近い将来必ず子どもの事故などが起こりうると思う。
3	ゴミが正しく分別されていません。粗大ゴミがシールを貼らずに出される。タバコの吸い殻。ペットボトルの空きかんがあちこちに捨てられている。
4	横浜市青葉区などは民生委員が訪ねてくるので困っていることなどは有りません。月一度位の訪問が有る。（川崎市は無い）。
5	歩道を走行する自転車。
6	障害者のいる世帯もそれなりに町会や近所のつき合いに協力して欲しい。「地域」に外国人（東南アジア人）が増加して、マナーが悪い。

橋出張所管内

	内容
1	近所のグループホームに入りたくても入れない。
2	市政だよりは見ているが頭に入って来ず。先ほどの質問されるも覚えていない。
3	若い夫婦のけんか（警察何回も）（子ども不安）。
4	家の前が市の境で信号の少ない道の為、夕ぐれ時から集まりはじめる。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	3
2. 地域交流のため	7
3. 社会貢献	5
4. 健康維持	5
5. 時間に余裕があるから	0
6. 身近で関心・興味がある	6
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	2
8. 街の美化のため	2
9. 時間に余裕がなく、できない	3
10. 病気・高齢だからできない	1
11. 参加する気はあるが方法がわからない	0
12. その他	4

1. 自分自身や子どものため（3件）

区役所管内

	内容
1	将来のそなえとして自分として取りくみたい。
2	子育て中でもあり、自らの子育てへの成長にもつながるから。医療に関して役に立ちそうだから。

橘出張所管内

	内容
1	地域の環境をもっと良くしたいと感じ、活動することは自己においてもためになると思う為。

2. 地域交流のため（7件）

区役所管内

	内容
1	月に1回位は皆の顔が見たい。
2	町内会の人達と仲良くしたい。
3	地域交流。
4	人と接するのが好きだから環境問題に興味があるから。

橘出張所管内

	内容
1	話しがあるから。
2	地域の方との交流。
3	地域の方と親しくなれるかもしれないので。

3. 社会貢献（5件）

区役所管内

	内容
1	社会福祉に関心があるので。
2	色んな活動が本人、周囲、地域、国家財政に寄与するため。
3	シニアボランティア団体に所属し活動している。水彩画グループに入り活動している。
4	元気なうちに貢献したい。

橋出張所管内

	内容
1	高齢者の為自分に出来る範囲内でお手伝いさせて頂いています。

4. 健康維持（5件）

区役所管内

	内容
1	自分自身の健康のために。年をとっても歩きたいしボケないようにしたいからです。
2	年齢的に健康不安を感じるようになったため。

橋出張所管内

	内容
1	日頃運動不足なので。
2	健康寿命と寿命を近づけたいから。
3	健康づくり維持はコミュニケーションツールとして利用できる。子育ては自分の体験を伝えられる。

5. 時間に余裕があるから（0件）

6. 身近に関心・興味がある（6件）

区役所管内

	内容
1	自分の興味関心もてる分野で役立てるのであれば、それが望ましいです。
2	興味があるから（他1件）。
3	自発的にできそうだから。
4	日本人であれ、外国籍者であれ幸福で実りのある生活を送って欲しいから。日本語教師に関心が高いから。

橋出張所管内

	内容
1	今一番関心のある事なので。

7. 仕事をしていてかいは資格があるから（2件）

区役所管内

	内容
1	医療に関しては医療関連の仕事をしており職能を活かす機会、社会貢献できると思います。

橘出張所管内

	内容
1	ホームヘルパー資格がある。

8. 街の美化のため（2件）

橘出張所管内

	内容
1	街が汚いと治安が悪くなるので。
2	近くに公園や学校があり、子どもも多く通る場所なので主に環境美化に関心がある。

9. 時間に余裕がなく、できない（3件）

区役所管内

	内容
1	高齢者介護の仕事をしているから。
2	現在子育て中のため。

橘出張所管内

	内容
1	今現在子育て中だから。

10. 病気・高齢だからできない（1件）

区役所管内

	内容
1	自分本人が高齢になってきているため！！

11. 参加する気はあるが方法がわからない（0件）

12. その他（4件）

区役所管内

	内容
1	地域の安全が基礎だと思うから。
2	経験不足。
3	ボランティアに興味がなく対価がいる。
4	安全で暮らしやすい町でありたいから。

(3) 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

『地域包括ケアシステム』の取組等に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	19
2. 市への意見・要望について	22
3. 地域住民とのつながりについて	2
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	3
5. 今自分がやれることがない	1
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	5
8. 取組への期待について	13
9. 守秘義務について	1
10. 相談窓口について	0
11. 多世代や異属性間での交流について	0
12. 地域防犯・防災について	1
13. サービスや手続きについて	0
14. 医療について	1
15. その他	6

1. 取組の周知について（19件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	今回の調査で初めて聞いた内容が多かったです。主体的に情報収集をしない限り把握できない事柄も多々ありました。まずは、どんな取り組みを行っているのか、SNS や動画など若者でも気軽に情報を知ることができる便利ツールを活用すると良いと思いました。
2	25～29 歳	ケアシステムポータルサイトを見つけたがちょっと分かりづらい。意外とアプリが沢山あるのでみんながもっと使うように前面に押し出した方がいいと思っている。アプリとかでボランティアの募集とか講座とか申込とかできたら簡単だし行きたいと思える気がする。
3	25～29 歳	川崎市は大きな自治体なので、市民としての意識が薄いと感じます。（東京都の市部に住んでいたときは市が大体見通せて市民として動くことができた気がします）。自治体のホームページは常にとっても見づらいですが、HP や SNS など使っていないと若い世代は支援につながる事が出来ないと思います（台風後の川崎市社協の Facebook ページ運用はわかり易かったです）。
4	35～39 歳	色々な種類の福祉に関するシステムがあることを本アンケートで知ったが、知らないものばかりで、この地域ケアシステムというものもどんな効果があるのか知らないし、これだけたくさんのシステムがあっても、形ばかりのシステムになっているのではないかと感じています。
5	40～44 歳	世帯によっては地域包括ケアを利用し、介護者自身の健康状態のメンテナンスをケアできることを情報提供できるとよいと思う。情報がないことで利用できない事もあるため情報をケアマネから発信していければと思う。

	年代	内容
6	45～49 歳	そもそも聞いたことがない。周知不足。そこからやらないと住民は何のことだか理解できない。
7	55～59 歳	医療職なので内容を存じ上げていますが、住民の意識が低いと感じます。各家庭での ACP の必要性を啓発した方がいいと思いますが、厚労省広告の失敗で難しくなりそうですが、川崎市独自の方法の構築も有りだと思います。
8	60～64 歳	具体的なイメージがわくパンフレットの様なものを作成し、個別に配布するとよいと思います。
9	65～69 歳	地域包括ケアシステムの考え方は非常に良いと思われるが、どのようなことをどこで行っているのかよくわからない。実施している内容と誰が行っているのかを知らせる方法に問題がある。だいたいメディア情報は見ていると思うが今まで内容に全く気がつかなかった。
10	65～69 歳	地域包括ケアシステムは知りませんでした。もう少し PR に工夫をしたらよいと思います。すばらしい取り組みだと思います。
11	70～74 歳	自分の住んでいる地域でどのような活動が行われているのか詳しく知らない人もいると思うのでもっときめ細かく具体的にその内容を教えてほしいと思います。どんな立場や状況でも気軽に参加できる場所を増やして欲しいと思います。
12	70～74 歳	「地域包括ケアシステム」自体を知りません。

橘出張所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	活動しているも何も存在を知りません。スマホの普及率を考慮して「手軽さ」を考えて下さい。書面、チラシなど紙媒体の活用より IT を進めて下さい。
2	35～39 歳	全く知らないので事例の紹介など知名度を上げる取り組みが必要です。
3	40～44 歳	周知されていないと思う。
4	45～49 歳	ポスター・チラシを定期的に示していつでも気軽に参加できる、こんどは参加してみよう、と思えるようなアプローチと、参加して良かった、続けていきたいと思えるような内容であることが一番なのではないか。
5	75 歳以上	つい最近「地域包括支援センター」の名前と内容がわかりました。
6	75 歳以上	町内会から回覧板が回るだけの通知なので行政が行なう講座などは参加したことないし取り組みなんて出来ない。
7	75 歳以上	こんなシステムが有る事は分らなかった。民生委員の人達の仕事とっておりました。知らず申し訳ありませんでした。現在年齢もかさんでおりますが、出来る事があれば協力したいと思います。

2. 市への意見・要望について（21件）

区役所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	抽象的で具体的に誰がどこで何をしている”何”なのか、今はどの段階なのか、どこまで構築してあって何が未完で不足しているのか、伝えられていないなら存在しているかも疑問です。
2	35～39 歳	高齢者のことばかりでなく子どもに関しても支援やサービスを強化してほしいです。少子化といわれていますが対応は遅く、問題はなかなか解決されていないように見受けられます。待機児童問題も解決されていません。特に認可が少ないです。増やして欲しいです。
3	35～39 歳	意識してそうする、ではなく意識しなくとも結果そうなったという状態にならないと定着しないし、人や地域によっての格差が広がるのではないかとと思う。

	年代	内容
4	35～39 歳	色々な種類の福祉に関するシステムがあることを本アンケートで知ったが、知らないものばかりで、この地域ケアシステムというものもどんな効果があるのか知らないし、これだけたくさんのシステムがあっても、形ばかりのシステムになっているのではないかと感じています。
5	45～49 歳	地域包括ケアシステムのことを知らないので、取組内容、目的等を知りたい。
6	45～49 歳	防災・介護などをからめた地域住民の小さな集団（自治会）により多くの人が参加できるよう、行政がコアになって呼びかけするなどの取組みが必要に感じる。
7	45～49 歳	市が本当にやる気があるのかわからない！！
8	50～54 歳	昨今の災害頻度の高まりより、地域包括ケアシステム、近隣住民との交流、様々な地域活動はより重要になると考えます。但し実際には、時間と金に余裕が無くなってきているのでそのような活動には参加しにくいのが実情と思います。ネット等を利用して空き時間に参加するのが現実的かと思います。直接対面することの方がより大事ではあると分かってはいるのですが。
9	50～54 歳	内容が理解できていないので次回アンケートでちゃんと回答できるようにします。
10	55～59 歳	市民よりどのような要望があり、市として公助、自助の範囲を明確にし、公助として現在今後の予定で何がどこでどのように受けられるか。また、その費用負担概略の提示。ボランティアに頼らず、市が業務として人を確保していただきたい。今後、市民のさらなる要望をいつどのようにまとめ明示していくか明確にしていきたい。
11	60～64 歳	介護保険による様々な利用料金をもっと引き上げるべきだと思います。今の高齢者世代は貯金も多く年金も多いです。（厚生年金）今のままでは、保険が機能しなくなると思います。今の若い世代（40代）が、やがて介護を受けるようになった時、介護を受けるにも受けられないくらい介護保険制度が弱体化しているのではないかと不安。40代の若い人達の負担ばかりに頼るのではなく、40代が年若いても介護制度が存続し、次の世代にバトンタッチできるようにしてほしい。
12	65～69 歳	地域包括ケアシステムの考え方は非常に良いと思われるが、どのようなことをどこで行っているのかよくわからない。実施している内容と誰が行っているのかを知らせる方法に問題がある。だいたいメディア情報は見ていると思うが今まで内容に全く気がつかなかった。
13	65～69 歳	行政もお忙しいと思いますが、地域の町会やボランティアや指定管理者に丸投げせず、もっと地域と個人の連携を密にしてくれたらワンクッションがなくて、色々な問題も解決するのではと思います。
14	70～74 歳	体のどこか痛いとか、違和感による通院や精密検査を受けるなどをやめて、体の異常と考えないほうが良い。年を重ねるとはそういう事なので。検査をやめて健康な身体を得たという人もたくさんいます。弱った体に健常者に近いレベルの栄養補給はやりすぎだと思う。その時が来たら自然に穏やかに自宅で平穏死を望む。それは誰もが目指すゴールだと思うけど、今の現実では無理に近い。ひと昔前の時代が良かった気がする。
15	70～74 歳	テクノかわさき内の事務所に行くことがあるが、一般の人はあまり見かけない。またたくさんのパンフレットがあるが多すぎて非対象的な並べかたである。
16	75 歳以上	町内会でも古くからいるお年寄りなどに対しては何から何まで整っているように見受けられます。何も知らないものが入ってきたとしてもどうすれば地域住民との関わり合いについて行けるのでしょうか。とても心配でなりません！！
17	75 歳以上	このようなアンケートで市民の意識実態を把握することは重要と考えます。川崎市はこれから高齢化が急速に進むと思われ地域包括の支援体制の為の支援が大切と考えます。一ボランティアの立場からもよろしくお願いします。

	年代	内容
18	75歳以上	現在住んでいるホームはある程度の規模（20以上）があり、ホーム内でかなりのことは充足されている。但し民間経営なので特に医療関係で限界がある。行政が本腰を入れてやるのであればこのような施設の実態を参考にすると良い。

橋出張所管内

	年代	内容
1	30～34歳	活動しているも何も存在を知りません。スマホの普及率を考慮して「手軽さ」を考えて下さい。書面、チラシなど紙媒体の活用よりITを進めて下さい。
2	45～49歳	本当は大切だと思うがとにかく自身の家庭がごたごたして他に手がまわりません。自分に余裕ができないと覚悟を持って人助けはできないと思います。
3	75歳以上	高齢者の為参加に無理がある。

3. 地域住民とのつながりについて（2件）

区役所管内

	年代	内容
1	65～69歳	近隣住民の方とは、問題がおきてから関わるのは、むずかしい。また、何も無い時には、面倒くさくて、付き合わない。という状況が多い。まずは、外に出たくなる楽しみのもてる交流がいろいろあり、そこで顔見知りになっていけるといいと思う。市が主催のカルチャースクール（興味を持って楽しい）を多くしてはどうか。地域ボランティアのリーダーの質が問題になる事があり、支配的、強引な人がリーダーになると害が多く、二度と出たくなるケースがあった（いくつも見てきた）。

橋出張所管内

	年代	内容
1	60～64歳	実際近隣住民とのかかわりがない。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（3件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54歳	昨今の災害頻度の高まりにより、地域包括ケアシステム、近隣住民との交流、様々な地域活動はより重要になると考えます。但し実際には、時間と金に余裕が無くなってきているのでそのような活動には参加しにくいのが実情と思います。ネット等を利用して空き時間に参加するのが現実的かと思います。直接対面することの方がより大事ではあると分かってはいるのですが。
2	70～74歳	自分の住んでいる地域でどのような活動が行われているのかくわしく知らない人もいると思うのでもっときめ細かく具体的にその内容を教えてほしいと思います。どんな立場や状況でも気軽に参加できる場所を増やして欲しいと思います。

橋出張所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	ポスター・チラシを定期的に示していつでも気軽に参加できる、こんどは参加してみよう、と思えるようなアプローチと、参加して良かった。つづけていきたいと思えるような内容であることが一番なのではないか。

5. 今自分がやれることがない（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	防災・介護などをからめた地域住民の小さな集団（自治会）により多くの人が参加できるよう、行政がコアになって呼びかけするなどの取組みが必要に感じる。

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（5件）

区役所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	ケアシステムポータルサイトを見つけたがちょっと分かりづらい。意外とアプリが沢山あるのでみんながもっと使うように前面に押し出した方がいいと思っている。アプリとかでボランティアの募集とか講座とか申込とかできたら簡単だし行きたいと思える気がする。
2	40～44 歳	これからもシステムの強化に尽力願いたい。
3	50～54 歳	たとえばもし情報があれば、土日に体が不自由で動けない人のお手伝いをします。
4	55～59 歳	医療職なので内容を存じ上げていますが、住民の意識が低いと感じます。各家庭での ACP の必要性の啓蒙活動をした方がいいと思いますが、厚労省広告の失敗で難しくなりそうですが、川崎市独自の方法の構築も有りだと思います。
5	65～69 歳	自分の地域は便利な所に住んでいて元気で動き回れるので、ストレス解消もできているが、動けない立場や支えが必要になった時に支え合う助け合う事に必要性を感じるでは遅すぎなので、誰でも年齢に関係なく生活に支障ない程度の半強制の活動があるとどうかと思います。

8. 取組への期待について（13件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	今回の調査で初めて聞いた内容が多かったです。主体的に情報収集をしない限り把握できない事柄も多々ありました。まずは、どんな取り組みを行っているのか、SNS や動画など若者でも気軽に情報を知ることができる便利ツールを活用すると良いと思いました。
2	35～39 歳	意識してそうする。ではなく意識しなくとも結果そうなったという状態にならないと定着しないし、人や地域によっての格差が広がるのではないかと、思う。
3	45～49 歳	私自身はまだ実感がわいていませんが、田舎に住んでいる父が1人暮らしなので民生委員の方や近所の方々に支えていただいていることが本当に有難いです。つながりがあることで父も元気でいてくれると思いますので、私も定年後などには地域で助け合いが出来るようになりたいと思っています。このような取り組みがあることを知って安心したし、もっとこういうことが当たり前になるといいと思います。
4	45～49 歳	市が本当にやる気があるのかわからない！！

	年代	内容
5	50～54 歳	内容が理解できていないので次回アンケートでちゃんと回答できるようにします。
6	65～69 歳	関心がないということではないのですが、幸い、現在が平穩に暮らせているということで十分と考えているのだと思います。
7	75 歳以上	このようなアンケートで市民の意識実態を把握することは重要と考えます。川崎市はこれから高齢化が急速に進むと思われ地域包括の支援体制の為の支援が大切と考えます。一ボランティアの立場からもよろしくお願いします。

橘出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	理論的にはすごく効果的だと思います。大学も産学官連携・大切さを学んでいます。私は引っ越ししてきて地元の学校に通ったことがほとんどないため、なかなか地域の人に自分から話しかけれないです。一方でボランティア活動は好きで同じ年代でなくむしろ上の年代の人と話すのが好きなので、チラシなどで定期的にボランティア活動、紹介などをして下さると嬉しいです。
2	70～74 歳	何か活動グループに入っていればその中で参加できる事があつたりしますが、地域で全く何があるのか知らずに取り残されている人も多いように思います。高齢化の進む中、年はとっても元気な人が多い地域社会になればいいと願います。
3	75 歳以上	高齢者の為参加に無理がある
4	75 歳以上	つい最近「地域包括支援センター」の名前と内容が分かりました。
5	75 歳以上	町内会から回覧板が回るだけの通知なので行政が行なう講座などは参加したことないし取り組みなんて出来ない
6	75 歳以上	地域包括支援センターが存在するのは知っているが、なんのためにあるか分からない。介護で困った時に相談するのだろうか。包括センターが要介護者にその安否を尋ねることを年に一回でも良いと思うが、それも全然ない。何とも必要を感じないがこのセンターはボランティアなのか。

9. 守秘義務について（1件）

	年代	内容
1	30～34 歳	健康管理は個人の問題。他人に知られたくない個人情報もあるので交流は不要。しっかり専門分野である病院に行くべき。

10. 相談窓口について（0件）

11. 多世代や異属性間での交流について（0件）

12. 地域防災・防犯について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	防災・介護などをからめた地域住民の小さな集団（自治会）により多くの人が参加できるよう、行政がコアになって呼びかけするなどの取り組みが必要に感じる。

13. サービスや手続きについて（0件）

14. 医療について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	75歳以上	現在住んでいるホームはある程度の規模（20㎡以上）があり、ホーム内でかなりのことは充足されている。但し民間経営なので特に医療関係で限界がある。行政が本腰を入れてやるのであればこのような施設の実態を参考にすると良い。

15. その他（6件）

区役所管内

	年代	内容
1	35～39歳	高齢者のことばかりでなく子どもに関しても支援やサービスを強化してほしいです。少子化といわれていますが対応は遅く、問題はなかなか解決されていないように見受けられます。待機児童問題も解決されていません。特に認可が少ないです。増やしてほしいです。
2	55～59歳	市民よりどのような要望があり、市として公助、自助の範囲を明確にし、公助として現在今後の予定で何がどこでどのように受けられるか。また、その費用負担概略の提示。ボランティアに頼らず、市が業務として人を確保していただきたい。今後、市民のさらなる要望をいつどのようにまとめ明示していくか明確にしていきたい。
3	60～64歳	介護保険による様々な利用料金をもっと引き上げるべきだと思います。今の高齢者世代は貯金も多く年金も多いです（厚生年金）。今のままでは、保険が機能しなくなると思います。今の若い世代（40代）が、やがて介護を受けるようになった時、介護をうけるにも受けられないくらい介護保険制度が弱体化しているのではないかと不安。40代の若い人達の負担ばかりに頼るのではなく、40代が年老いても介護制度が存続し、次の世代にバトンタッチできるようにしてほしい。
4	65～69歳	電話、インターネットを無料で使いたい。
5	75歳以上	今は自分が利用する機会がなくあまり関心がなかったが、機会があれば参加したいと思います。

橋出張所管内

	年代	内容
1	35～39歳	内容を開示しながら実施し現場の声や市民の声を定期的なききながら柔軟に変化して行ってほしいです。

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	19
2. 市への意見	22
3. 地域住民とのつながりについて	2
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	3
5. 今自分がやれることはない	3
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	8
8. 取組への期待について	24
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 地域防犯・防災について	1
12. サービスや手続きについて	0
13. 医療について	1
14. その他	8

1. 取組の周知について (35件)

区役所管内

	年代	内容
1	20～24歳	今回の調査で初めて聞いた内容が多かったです。主体的に情報収集をしない限り把握できない事柄も多々ありました(他2件)。
2	25～29歳	ケアシステムポータルサイトを見つけたがちょっと分かりづらい。アプリが沢山あるのでみんながもっと使うように前面に押し出した方がいいと思っている(他2件)。
3	25～29歳	川崎市は大きな自治体なので、市民としての意識が薄いと感じます。(東京都の市部に住んでいたときは市が大体見通せて市民として動くことができた気がします)自治体のホームページは常にとても見づらいますが、HPやSNSなども使っていないと若い世代は支援につながる事が出来ないと思います(台風後の川崎市社協のFacebookページ運用はわかりやすかったです)。
4	35～39歳	色々な種類の福祉に関するシステムがあることを本アンケートで知ったが、知らないものばかりで、この地域ケアシステムというものもどんな効果があるのか知らない(他2件)。
5	40～44歳	世帯によっては地域包括ケアを利用し、介護者自身の健康状態のメンテナンスをケアできることを情報提供できるとよいと思う。情報がなくて利用できない事もあるため情報をケアマネから発信していればと思う。
6	45～49歳	そもそも聞いたことがない。周知不足。そこからやらないと住民は何のことだか理解できない。
7	55～59歳	医療職なので内容を存じ上げていますが、住民の意識が低いと感じます。(他2件)。
8	60～64歳	具体的なイメージがわくパンフレットの様なものを作成し、個別に配布するとよいと思います。
9	65～69歳	地域包括ケアシステムの考え方は非常に良いと思われるが、どのようなことをどこで行っているのかよく分からない。だいたいのメディア情報は見ていると思うが今まで内容に全く気がつかなかった(他2件)。
10	65～69歳	地域包括ケアシステムは知りませんでした。もう少しPRに工夫をしたらよいと思います。素晴らしい取り組みだと思います。

	年代	内容
11	70～74 歳	自分の住んでいる地域でどのような活動が行われているのかくわしく知らない人もいると思うのでもっときめ細かく具体的にその内容を教えてほしいと思います（他 2 件）。
12	70～74 歳	「地域包括ケアシステム」自体を知りません。

橋出張所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	活動しているも何も存在を知りません（他 2 件）。
2	35～39 歳	全く知らないので事例の紹介など知名度を上げる取り組みが必要です。
3	40～44 歳	周知されていないと思う。
4	45～49 歳	参加して良かった、続けていきたいと思えるような内容であることが一番なのではないか（他 2 件）
5	75 歳以上	つい最近「地域包括支援センター」の名前と内容がわかりました。
6	75 歳以上	行政が行なう講座などは参加したことない（他 2 件）。
7	75 歳以上	こんなシステムが有る事はわからなかった。民生委員の人達の仕事とっておりました。知らず申し訳有りませんでした。現在年齢もかさんでおりますが、出来る事があれば協力したいと思います。

2. 市への意見（35 件）

区役所管内

	年代	内容
1	35～39 歳	高齢者のことばかりでなく子どもに関しても支援やサービスを強化してほしいです。待機児童問題も解決されていません。特に認可が少ないです。増やしてほしいです（他 2 件）。
2	35～39 歳	意識してそうする、ではなく意識しなくとも結果そうなったという状態にならないと定着しない（他 2 件）。
3	35～39 歳	たくさんのシステムがあっても、形ばかりのシステムになっているのではないかと感じています（他 2 件）。
4	45～49 歳	地域包括ケアシステムのことを知らないので、取組内容、目的等を知りたい。
5	45～49 歳	地域住民の小さな集団（自治会）により多くの人に参加できるよう、行政がコアになって呼びかけするなどの取組みが必要に感じる（他 3 件）。
6	50～54 歳	昨今の災害頻度の高まりにより、地域包括ケアシステム、近隣住民との交流、様々な地域活動はより重要になると考えます（他 2 件）。
7	50～54 歳	内容が理解できていない（他 2 件）。
8	55～59 歳	市民よりどのような要望があり、市として公助、自助の範囲を明確にし、公助として現在今後の予定で何がどこでどのように受けられるか。また、その費用負担概略の提示。ボランティアに頼らず、市が業務として人を確保していただきたい。（他 2 件）。
9	60～64 歳	介護保険による様々な利用料金をもっと引き上げるべきだと思います（他 2 件）。
10	65～69 歳	地域包括ケアシステムの考え方は非常に良いと思われるが、どのようなことをどこで行っているのかよくわからない。実施している内容と誰が行っているのかを知らせる方法に問題がある（他 2 件）。
11	65～69 歳	電話、インターネットを無料で使いたい。
12	65～69 歳	行政もお忙しいと思いますが、地域の町会やボランティアや指定管理者に丸投げせず、もっと地域と個人の連携を密にしてくれたらワンクッションがなくて、色んな問題も解決するのではと思います。
13	70～74 歳	体のどこか痛いとか、違和感による通院や精密検査を受けるなどをやめて、体の異常と考えないほうが良い。年を重ねるとはそういう事なので。検査をやめて健康な身体を得たという人もたくさんいます。弱った体に健常者に近いレベルの栄養補給はやりすぎだと思う。その時が来たら自然に穏やかに自宅で平穏死を望む。それは誰もが目指すゴールだと思うけど、今の現実では無理に近い。ひと昔前の時代が良かった気がする。

	年代	内容
14	70～74 歳	テクノかわさき内の事務所に行くことがあるが、一般の人はあまり見かけない。またたくさんパンフレットがあるが多すぎて非対象的な並べかたである。
15	75 歳以上	町内会でも古くからいるお年寄りなどに対しては何から何まで整っているように見受けられます。何も知らないものが入ってきたとしてもどうすれば地域住民との関わり合いについて行けるのでしょうか。とても心配でなりません。
16	75 歳以上	このようなアンケートで市民の意識実態を把握することは重要と考えます（他 2 件）。
17	75 歳以上	現在住んでいるホームはある程度の規模（20 ㎡以上）があり、ホーム内でかなりのことは充足されている（他 2 件）。

橋出張所管内

	年代	内容
1	30～34 歳	スマホの普及率を考慮して「手軽さ」を考えて下さい。書面、チラシなど紙媒体の活用より IT を進めて下さい。
2	45～49 歳	本当は大切だと思うがとにかく自身の家庭がごたごたして他に手がまわりません。自分に余裕ができないと覚悟を持って人助けはできないと思います。
3	75 歳以上	高齢者の為参加に無理がある（他 2 件）。

3. 地域住民とのつながりについて（2 件）

区役所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	近隣住民の方とは、問題がおきてから関わるのは、むずかしい。又、何もない時には、面倒くさくて、付き合わない。という状況が多い。まずは、外に出たくなる楽しみのもてる交流がいろいろあり、そこで顔見知りになっていけるといいと思う。市が主催のカルチャースクール（興味を持てる楽しい）を多くしてはどうか。地域ボランティアのリーダーの質が問題になる事があり、支配的、強引な人がリーダーになると害が多く、二度と出たくなるケースがあった（いくつも見てきた）。

橋出張所管内

	年代	内容
1	60～64 歳	実際近隣住民とのかかわりが無い。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（5 件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	ネット等を利用して空き時間に参加するのが現実的かと思います（他 2 件）。
2	70～74 歳	どんな立場や状況でも気軽に参加できる場所を増やして欲しいと思います（他 2 件）。

橋出張所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	アンケート自体、答えに迷ったり戸惑い回答しづらい様に強く感じた。如何にもお役所的な気分させられたアンケートだった。協力したい気持ちはあるが、理解困難な質問ばかりで明確な回答に至らない調査だったと思う。勿論、自身の意識自体把握出来ていない部分が問題でもあった為。

5. 今自分がやれることはない（3 件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	自治会により多くの方が参加できるよう、行政がコアになって呼びかけするなどの取組みが必要に感じる（他 2 件）。

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	25～29 歳	意外とアプリが沢山あるのでみんながもっと使うように前面に押し出した方がいいと思っている。アプリとかでボランティアの募集とか講座とか申込とかできたら簡単だし行きたいと思える気がする（他2件）。
2	50～54 歳	たとえばもし情報があれば、土日に体が不自由で動けない人のお手伝いをします。
3	55～59 歳	各家庭での ACP の必要性を啓発した方がいいと思いますが、厚労省広告の失敗で難しくなりそうですが、川崎市独自の方法の構築も有りだと思います（他2件）。
4	65～69 歳	自分の地域は便利な所に住んでいて元気で動き回れるので、ストレス解消もできているが、動けない立場や支えが必要になった時に支え合う助け合う事に必要性を感じるでは遅すぎなので、誰でも年齢に関係なく生活に支障ない程度の半強制の活動があるとどうかと思います。

8. 取組への期待について（24件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	まずは、どんな取り組みを行っているのか、SNS や動画など若者でも気軽に情報を知ることができる便利ツールを活用すると良いと思いました（他2件）。
2	35～39 歳	人や地域によっての格差が広がるのではないかと思う（他2件）。
3	45～49 歳	市のやる気が見えない（他2件）。
4	50～54 歳	次回アンケートでちゃんと回答できるようにします（他2件）。
5	65～69 歳	関心がないということではないのですが、幸い、現在が平穏に暮らしているということで十分と考えているのだと思います。
6	75 歳以上	川崎市はこれからが高齢化が急速に進むと思われ地域包括の支援体制の為に支援が大切と考えます。一ボランティアの立場からもよろしくお願いします。（他2件）

橋出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	理論的にはすごく効果的だと思います。大学も産学官連携・大切さを学んでいます。私は引っ越ししてきて地元の学校に通ったことがほとんどないため、なかなか地域の人に自分から話しかけられないです。一方でボランティア活動は好きで同じ年代でなくむしろ上の年代の人と話すのが好きなので、チラシなどで定期的にボランティア活動、紹介などをして下さると嬉しいです。
2	70～74 歳	何か活動グループに入っていればその中で参加できる事があったりしますが、地域で全く何があるのか知らずに取り残されている人も多いように思います。高齢化が進む中、年はとっても元気な人が多い地域社会になればいいと願います。
3	75 歳以上	高齢者の為参加不可（他2件）。
4	75 歳以上	つい最近「地域包括支援センター」の名前と内容がわかりました。
5	75 歳以上	行政が行なう講座などは参加したことないし取り組みなんて出来ない（他2件）。
6	75 歳以上	地域包括支援センターの存在するのは知っているが、なんのためにあるかわからない。介護で困った時に相談するのだろうか。包括センターが要介護者にその安否を尋ねることを年に一回でも良いと思うか、それも全然ない。何とも必要を感じないがこのセンターはボランティアなのか。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（0件）

11. 地域防犯・防災について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	防災・介護などをからめた地域住民の小さな集団（自治会）により多くの人が参加できるような取組みが必要に感じる（他3件）。

12. サービスや手続きについて（0件）

13. 医療について（3件）

区役所管内

	年代	内容
1	75 歳以上	現在住んでいるホームはある程度の規模（20 以上）があり、ホーム内でかなりのことは充足されている（他2件）。

14. その他（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	55～59 歳	市民よりどのような要望があり、市として公助、自助の範囲を明確にし、公助として現在今後の予定で何がどこでどのように受けられるか知りたい（他2件）。
2	60～64 歳	今の高齢者世代は貯金も多く年金も多いです（厚生年金）。今のままでは、保険が機能しなくなると思います。今の若い世代（40 代）が、やがて介護を受けるようになった時、介護を受けるにも受けられないくらい介護保険制度が弱体化しているのではないかと不安（他2件）。
3	65～69 歳	電話、インターネットを無料で使いたい。

橋出張所管内

	年代	内容
1	35～39 歳	内容を開示しながら実施し現場の声や市民の声を定期的なききながら柔軟に変化して行ってほしいです。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■お問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	()
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他()

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学 生
2. 定年退職者	4. その他()

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより | 6. 交流会・ワークショップ |
| 2. 市や区のホームページ | 7. シンポジウム |
| 3. チラシ・パンフレット | 8. 講演・講習会 |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. ロコミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合 | 10. その他() |

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 両隣 |
| 2. 向こう三軒両隣程度 |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度 |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度 |
| 6. その他() |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度 |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度 | 6. その他() |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない |
| 7. その他() |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している | (→ 問17へ進む) |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない |
| 2. きっかけがない |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい |
| 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない |
| 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない |
| 11. その他 () |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。
(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度 | 4. 中学校区程度 | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他 |
| 3. 小学校区程度 | 6. 川崎市内程度 | () |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)
2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)
3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)
4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)
5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)
6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)
7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題
9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題
10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題
11. その他()
12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む)

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

.....

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない
2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない
3. 経済的に生活できるか不安である
4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない
5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他()

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

1. 親 族	8. 区役所・市役所
2. 友人・知人	9. 地域の医療機関
3. 近所の人	10. ケアマネジャーやホームヘルパー等
4. 民生委員児童委員	11. その他()
5. 社会福祉協議会	12. 誰もいない
6. 地域の活動団体	13. 頼みたくない
7. NPO等の民間団体	

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

1. 安否確認の見守り・声かけ	8. 外出の付添い
2. 趣味など世間話の相手	9. 災害時の手助け
3. 子育て・介護などの相談相手	10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め
4. 炊事・洗濯・掃除などの家事	11. 電球交換や簡単な大工仕事
5. 草むしり、冷蔵庫内の整理	12. その他()
6. ちょっとした買物	13. 特にない
7. 子どもの預かり	

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

1. 安否確認の見守り・声かけ	8. 外出の付添い
2. 趣味など世間話の相手	9. 災害時の手助け
3. 子育て・介護などの相談相手	10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め
4. 炊事・洗濯・掃除などの家事	11. 電球交換や簡単な大工仕事
5. 草むしり、冷蔵庫内の整理	12. その他()
6. ちょっとした買物	13. 特にない
7. 子どもの預かり	

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ()

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ()

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題と
なっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはま
るものすべてに○)

1. 経済的に困窮している(お金がない)こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他()
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを
5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他()
14. 特にない
15. わからない

《問31-2～問30-5は、問31で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 健康づくりに関する活動 | 8. お祭りやイベントに関する活動 |
| 2. 高齢者に関する活動 | 9. 地域安全に関する活動 |
| 3. 障害児・者に関する活動 | 10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動 |
| 4. 子育てに関する活動 | 11. 文化・芸術に関する活動 |
| 5. 医療に関する活動 | 12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動 |
| 6. 町内会・自治会に関する活動 | 13. その他() |
| 7. 社会福祉協議会に関する活動 | 14. 具体的にはわからない |

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

----- ----- -----

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 週3回以上 | 3. 月2～3回 | 5. 月1回未満 |
| 2. 週1～2回 | 4. 月1回 | |

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 平日日中(10時～17時)2時間以内 | 5. 休日日中2時間以内 |
| 2. 平日日中4時間以内 | 6. 休日日中4時間以内 |
| 3. 平日日中6時間以内 | 7. 休日日中6時間以内 |
| 4. 平日夜間(17時～20時) | 8. 休日夜間(17時～20時) |

《問31-6～問31-7は、問31で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間がない | 8. 一度はじめると拘束されてしまう |
| 2. きっかけがつかめない | 9. 行政や事業者が行えばよい |
| 3. 身近に活動グループや仲間がいない(知らない) | 10. 人と接するのが苦手 |
| 4. 健康に自信がない | 11. 地域活動やボランティア活動はしたくない |
| 5. 家族や職場の理解が得られない | 12. その他() |
| 6. 興味を持てる活動がない | 13. 特に理由はない |
| 7. 育児や介護を必要とする家族がいる | |

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他()
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

【保健・福祉に関することについておたずねします】

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている | |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている | |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない | } (→問 34 へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない | |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進 |
| 2. 子育て支援の充実 | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進 | 8. 福祉関係団体の活動支援 |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催 | 9. その他 () |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報 | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ | 9. 友人・知人 |
| 3. チラシ・パンフレット | 10. 学 校 |
| 4. 新聞・テレビ | 11. 近 隣 |
| 5. 民生委員児童委員 | 12. 団体等の広報紙等 |
| 6. 社会福祉協議会 | 13. その他 () |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所) | |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2～3日程度 | 4. 月に数日程度 | |

【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ()
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ()
14. 特にない

問38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ()
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他 () |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特になし |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他() |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特にない |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること |
| 2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと |
| 3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること |
| 4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること |
| 5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと |
| 6. その他() |
| 7. 特に取り組むべきことはない |

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握 |
| 2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり |
| 3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成 |
| 4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示 |
| 5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実 |
| 6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供 |
| 7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化 |
| 8. その他() |

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座
2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座
3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座
4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座
5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座
6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座
7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座
8. 先進的な取り組み事例が学べる講座
9. その他 ()
10. 特になし

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している
2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない
3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない
4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない
5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない

(→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

《問45-1は、問45で「3」～「5」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問45-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。

このような行動を行っていますか。行っている場合、かっこ内にあなたが行っている取組等についてお書きください。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 定期的に行っている（ | ） |
| 2. たまに行っている（ | ） |
| 3. 行っていないが、機会があれば行いたい | |
| 4. 行っていないし、関心もない | |

問46 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問47 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

12月20日（金）までにお近くのポストに投函してください。

第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（高津区版）

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
